

令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査

5団体の比較結果

調査結果報告書（概要版）

令和5年3月

神戸市

【目次】

(1) 調査概要	1
① 調査の目的	1
② 調査対象.....	1
③ 調査方法等.....	2
④ 調査の対象と回収状況	2
⑤ 調査結果の表示方法.....	2
(2) 団体が活動している地域の状況等	3
① 住民の居住年数の特徴	3
② 住民同士の交流の状況	4
③ 住民による地域活動の活発さの状況	5
④ 活発になっている理由	6
⑤ 以前に比べて活発でなくなった理由	7
⑥ 活動している地域の課題.....	8
⑦ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと	10
(3) 活動を進めていくための課題	12
① コロナ禍での活動で苦勞していること.....	12
② 活動を進めていくための課題（運営面）	14
③ 活動を進めていくための課題（人材面）	16
④ 活動への住民の参加状況の課題	17
⑤ 地域住民への情報伝達における課題.....	18
(4) 他団体との連携・協力	20
① 既に連携している団体.....	20
② 新たに連携したい団体.....	22
(5) デジタル技術の活用	24
① デジタル技術の活用状況.....	24
② 今後新たに活用したいデジタル技術	25
③ デジタル技術活用のために市に求める支援	26
④ デジタル技術活用のために参加したい講習会	27
(6) 今後の活動に向けて	28
① 活動の現状についての満足度	28
② 団体が担う役割の今後についての考え	28
③ 団体の活動を活発にしていくために必要なこと	29
④ 市に相談したいことや支援を希望すること	30
(7) 代表の活動状況	32
① 代表（回答者）の状況	32
③ 代表の選出方法.....	35
④ 代表の任期や定年の定め.....	35

⑤ 代表になってからの年数	36
⑥ 地域活動のための月間活動日数	36
⑦ 地域活動の担い手として参加したきっかけ	37
⑧ 地域活動に参加してよかったこと	38
⑨ 会長として特に感じる負担	39

(1) 調査概要

①調査の目的

神戸市では、おおむね3年ごとに、市内で活動されている地域組織のみなさまの活動実態及び課題などを把握するためアンケート調査を実施している。

前回の調査（令和元年度）以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、対面での活動が制限されたり、感染防止対策が必要となるなど、地域活動の実施にあたっては様々な工夫をされるとともに、様々な地域課題への対応や、デジタル技術の活用等、新たな取組にもチャレンジされていると考えられる。そこで、地域組織の活動に携わっている市民の取り組みや感じていることを把握し、今後の施策に活用する。

② 調査対象

下記の5種類の団体を対象とする。

	概要	備考
自治会	様々な地域課題を住民自ら解決するために結成された住民自治組織で、地域の実情に応じ、クリーンステーションの清掃、防火・防犯活動、高齢者や障がい者への福祉活動、親睦行事の催しなどの活動を行っている。	神戸市に登録している自治会を対象とした。マンション管理組合は対象外とした。
婦人会	小学校区を単位として組織され、会員としての自覚と誇りを持ち、常に自己研鑽に努めながら、住み良い地域づくりを目指し活動を続けている。これまでの活動の積み重ねにより培った地域との関係や経験を若い世代に繋げ、地域活動の担い手を育成するとともに、子育て世帯を応援し、一緒になって様々な課題に取り組んでいる。	全ての団体を調査対象とした。
ふれあいのまちづくり協議会	高齢者や障がい者、子どもたちなどが、あたたかいふれあいの中で互いに支え合って暮らしていくことができる地域社会づくりをめざしている。自治会、民生委員・児童委員協議会、婦人会、老人クラブ、子ども会、ボランティアなどの各種団体の代表者などにより、おおむね小学校区単位で構成されており、地域の実情に応じた福祉活動や交流活動などを実践し、地域福祉の向上をめざしている。	全ての団体を調査対象とした。
まちづくり協議会	まちづくり提案の策定やまちづくり協定の締結等を目指して、地区の住み良いまちづくりを推進するために地区の住民等（居住者・事業者・土地又は家屋の所有者等）により結成される協議会。	全ての団体を調査対象とした。
NPO法人	特定非営利活動促進法（NPO法）により法人格を付与された団体で、福祉、環境、まちづくり等さまざまな分野の社会貢献活動を行っている。	神戸市が認証しているNPO法人を対象とした。

③ 調査方法等

調査方法	調査対象団体の代表者に調査票を郵送配付し、郵送で回収した。
調査期間	令和4年10月11日（火）～11月11日（金）

④ 調査の対象と回収状況

	発送数	未着数	有効発送数	有効回収数	回収率
自治会	2,230	9	2,221	1,330	59.9%
婦人会	92	0	92	67	72.8%
ふれあいのまちづくり協議会	193	0	193	142	73.6%
まちづくり協議会	59	4	55	36	65.5%
NPO法人	747	31	715	298	41.7%
合計	3,321	44	3,276	1,873	57.2%

⑤ 調査結果の表示方法

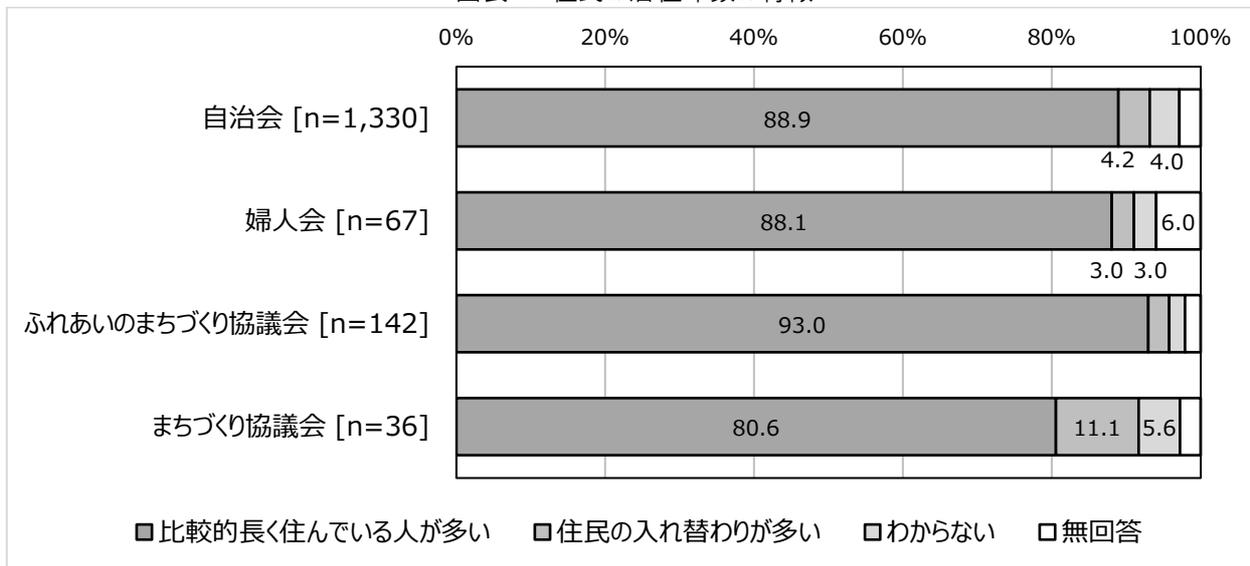
- ・比率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの百分率（%）で表しています。このため、合計が100%にならない場合もあります。
- ・各設問のサンプルサイズは、“n=●”として記載しています。
- ・〔複数回答〕とある設問は、2つ以上の選択肢を回答することが可能な設問です。このため、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。

(2) 団体が活動している地域の状況等

①住民の居住年数の特徴

・すべての団体において、「比較的長く住んでいる人が多い」が最も多くなっている。

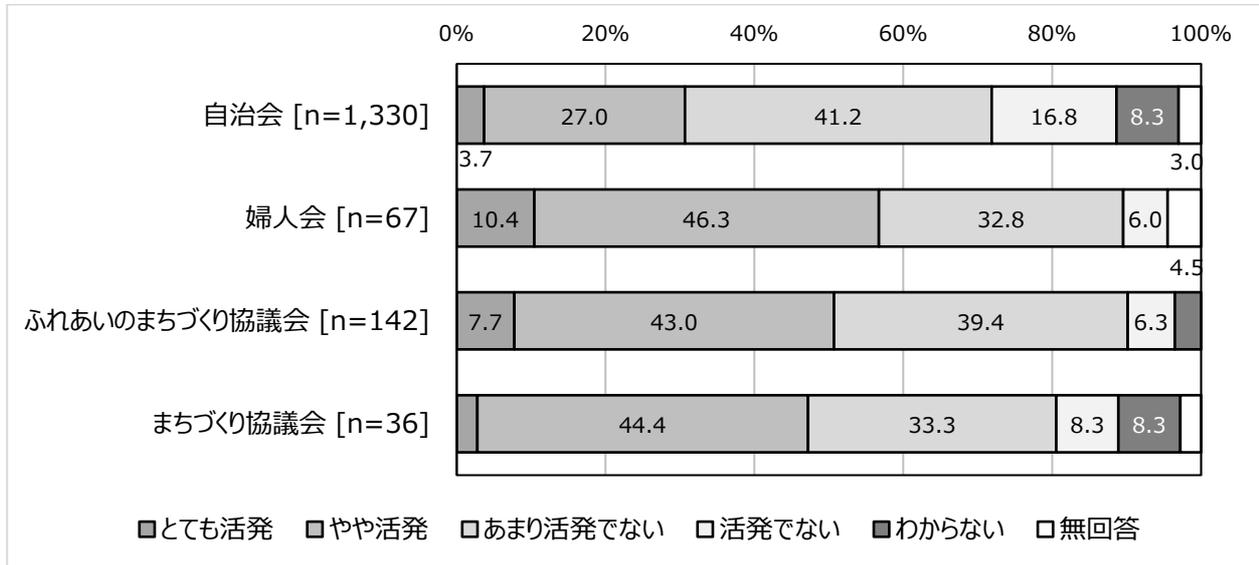
図表 1 住民の居住年数の特徴



② 住民同士の交流の状況

・自治会において、活発（「とても活発」と「やや活発」の合計）の割合が他の団体に比べて少なくなっている。

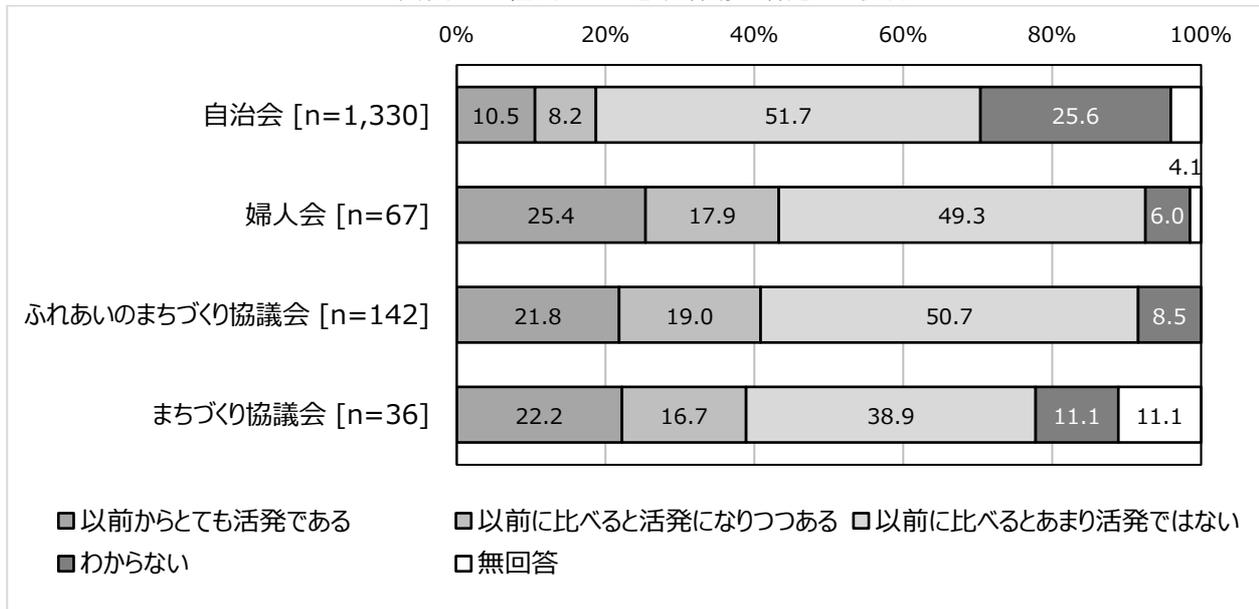
図表 2 住民同士の交流の状況



③ 住民による地域活動の活発さの状況

・すべての団体において、「以前に比べるとあまり活発ではない」が最も多くなっている。

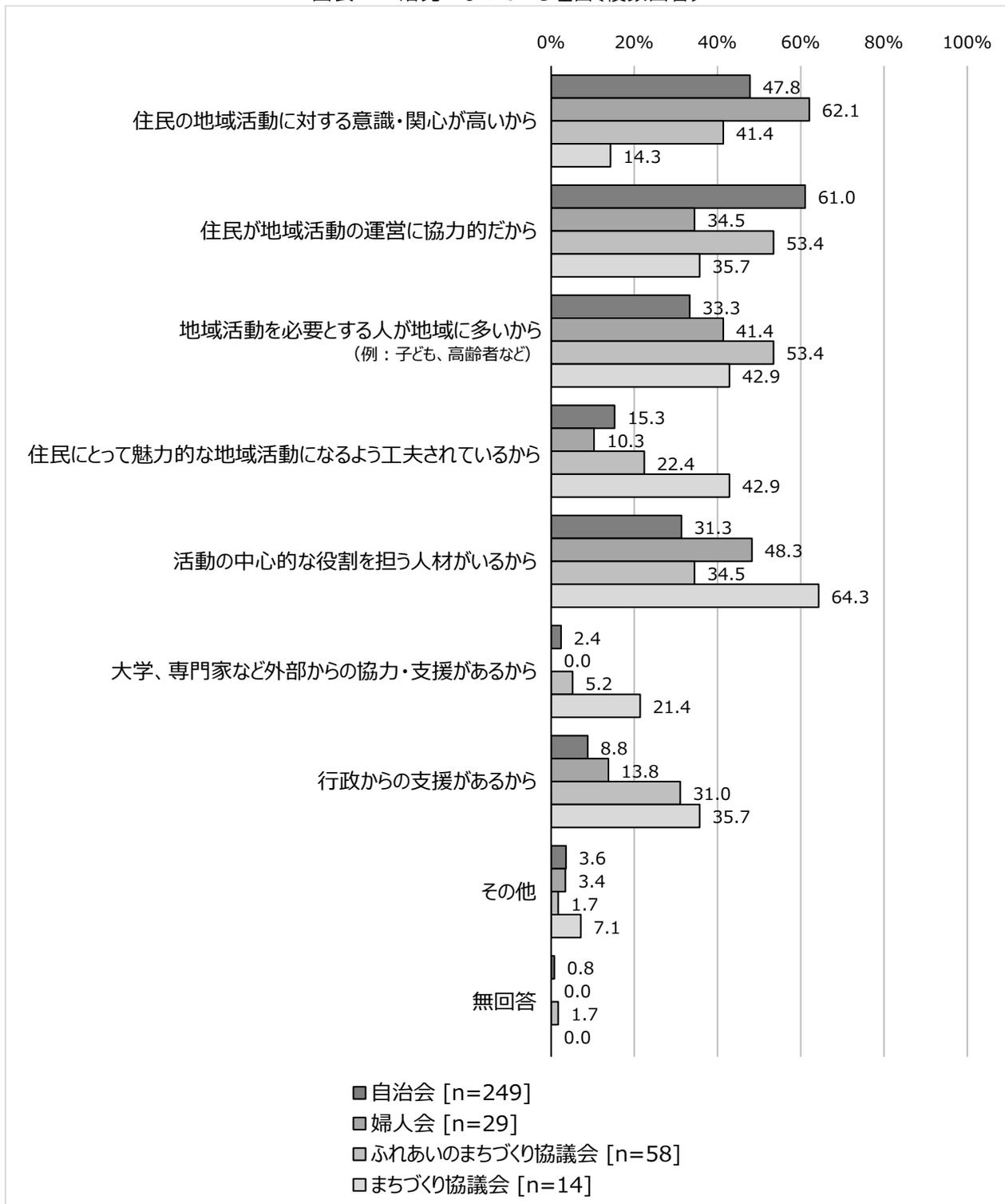
図表 3 住民による地域活動の活発さの状況



④活発になっている理由

- ・自治会とふれあいのまちづくり協議会では、「住民が地域活動の運営に協力的だから」が多くあげられている。
- ・婦人会では、「住民の地域活動に対する意識・関心が高いから」が多くあげられている。
- ・まちづくり協議会では、「活動の中心的な役割を担う人材がいるから」が多くあげられている。

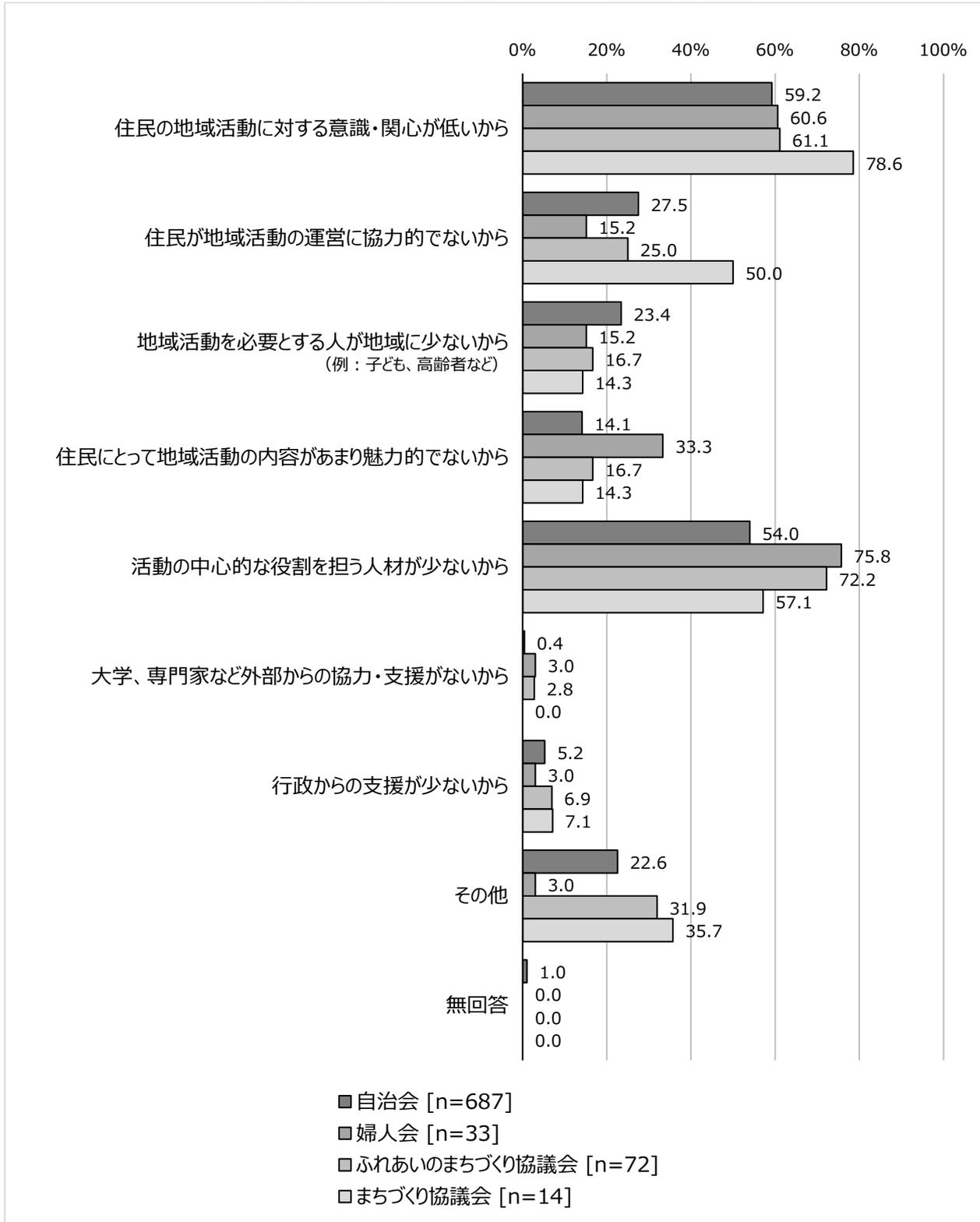
図表 4 活発になっている理由〔複数回答〕



⑤以前に比べて活発でなくなった理由

- ・自治会とまちづくり協議会では、「住民の地域活動に対する意識・関心が低いから」が多くあげられている。
- ・婦人会とふれあいのまちづくり協議会では、「活動の中心的な役割を担う人材が少ないから」が多くあげられている。

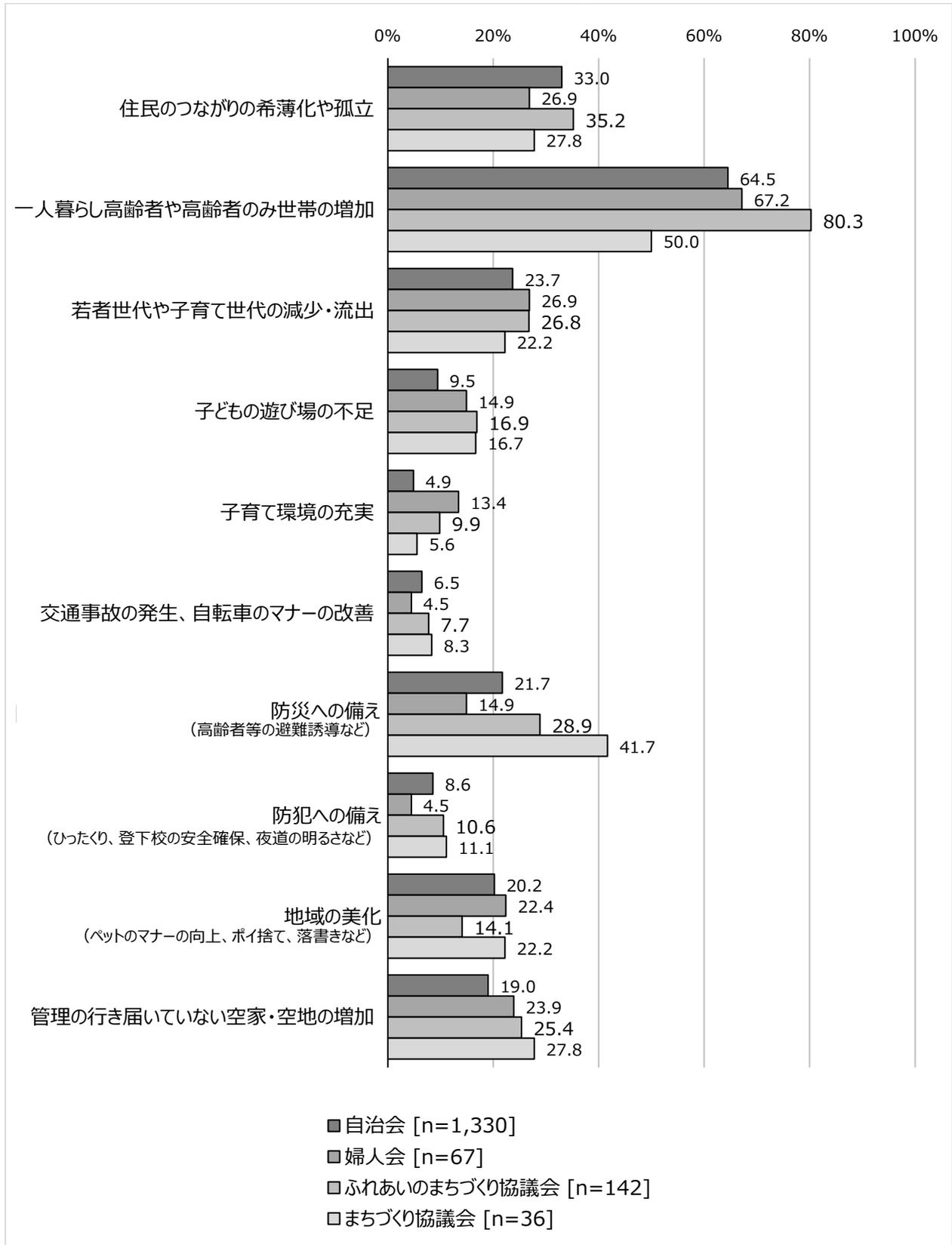
図表 5 以前に比べて活発でなくなった理由〔複数回答〕

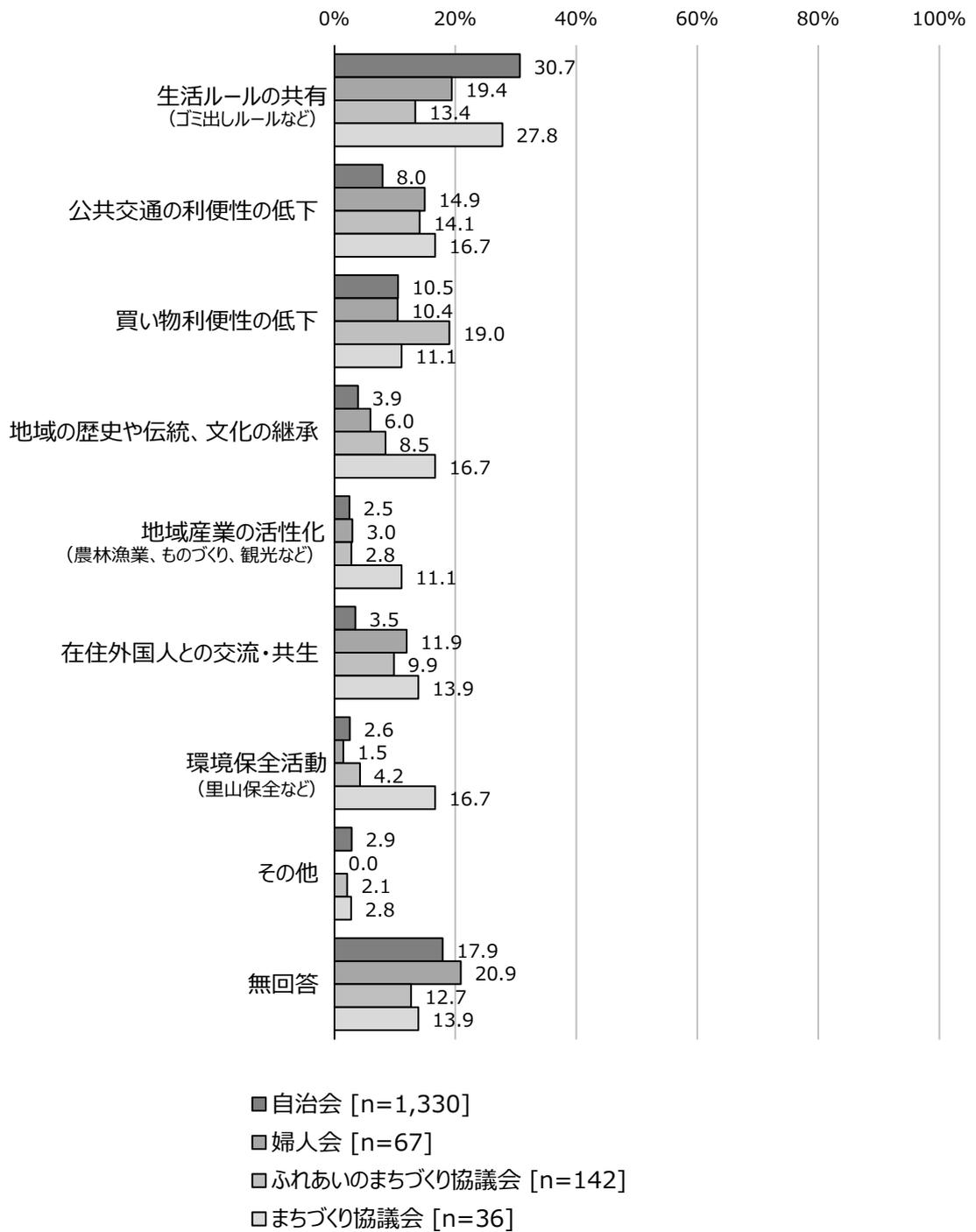


⑥ 活動している地域の課題

・すべての団体において、「一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加」が多くあげられている。

図表 6 活動している地域の課題〔複数回答〕

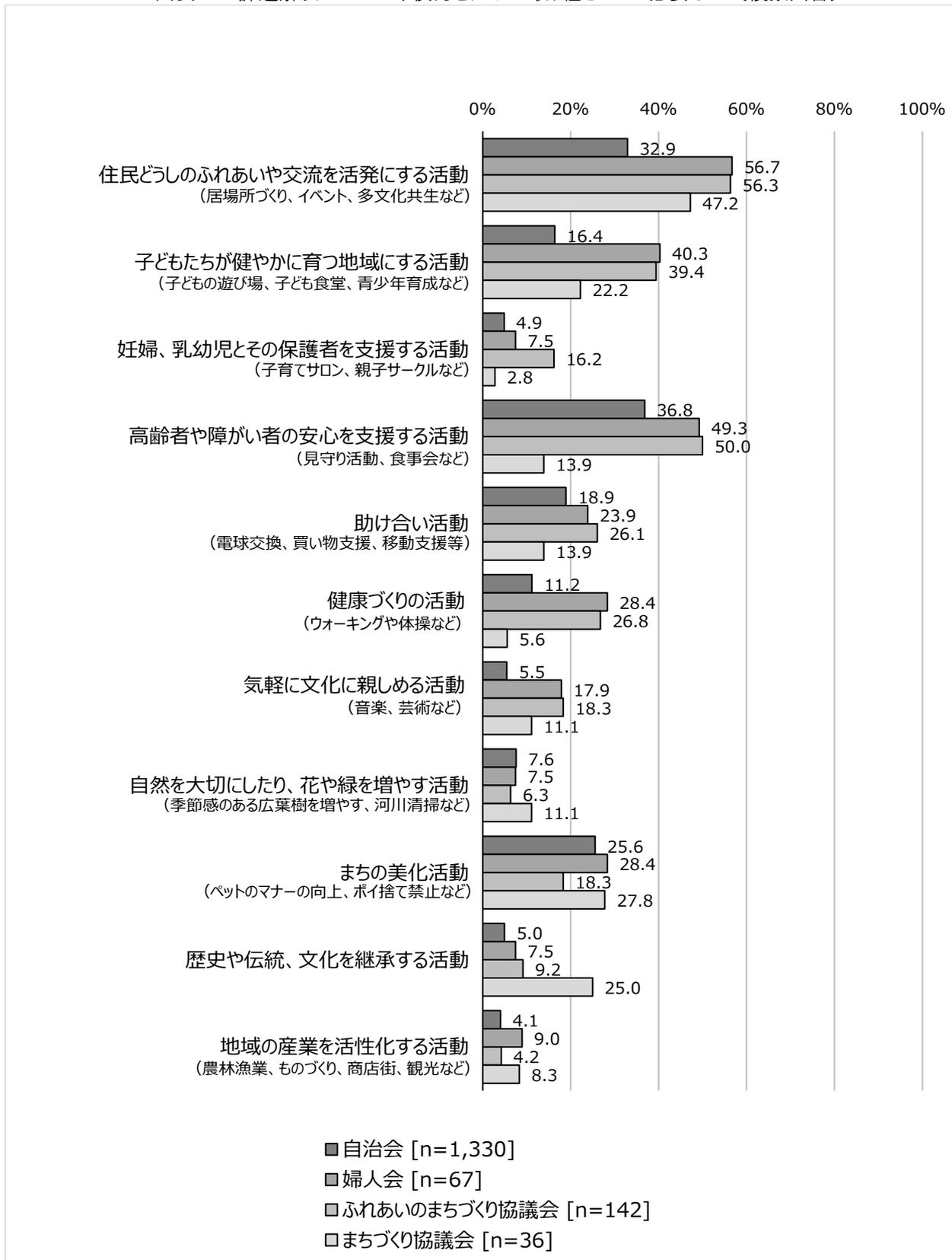




⑦ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと

・婦人会やふれあいのまちづくり協議会において、「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動」や「高齢者や障がい者の安心を支援する活動」が多くあげられている。

図表 7 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと〔複数回答〕



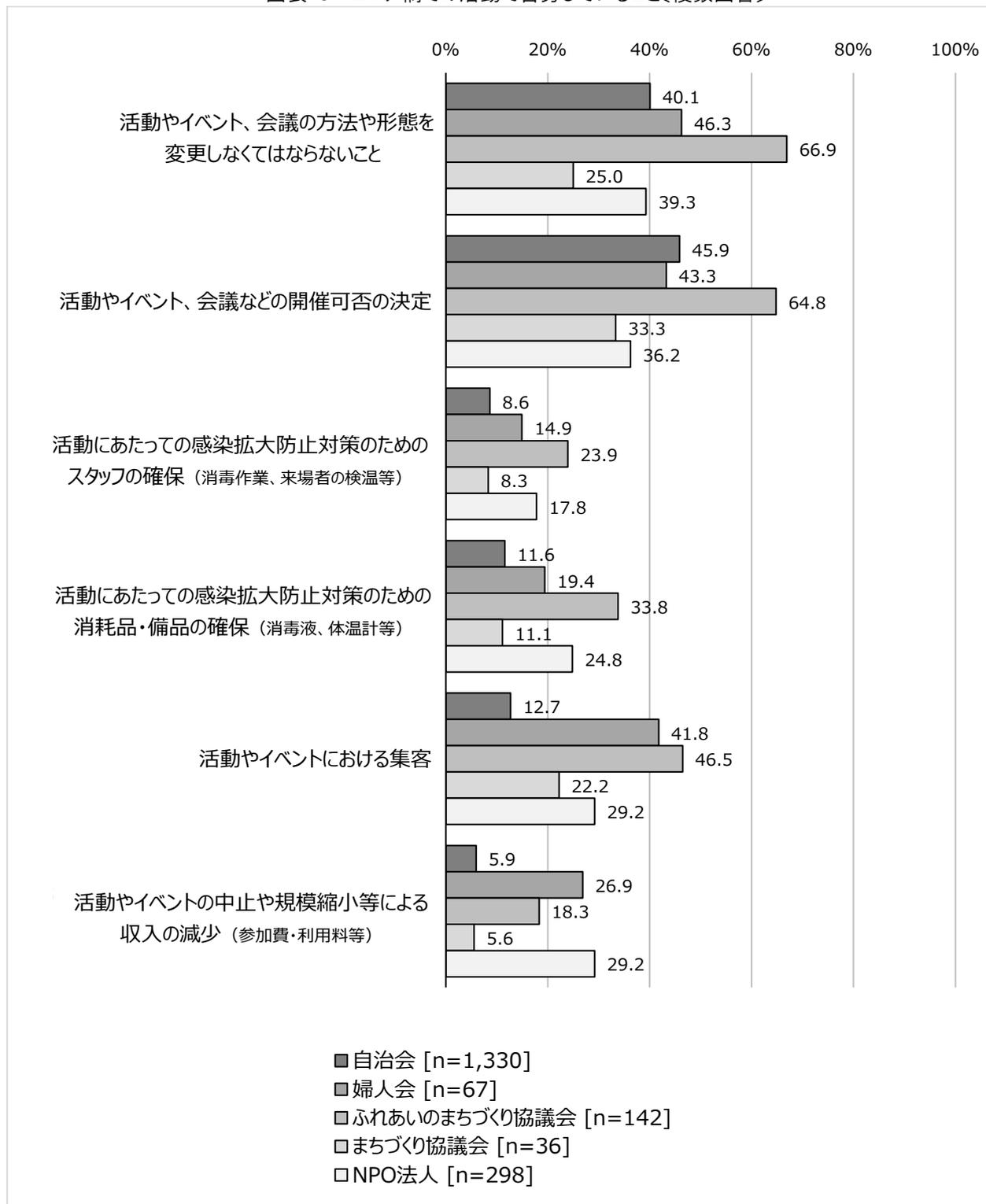


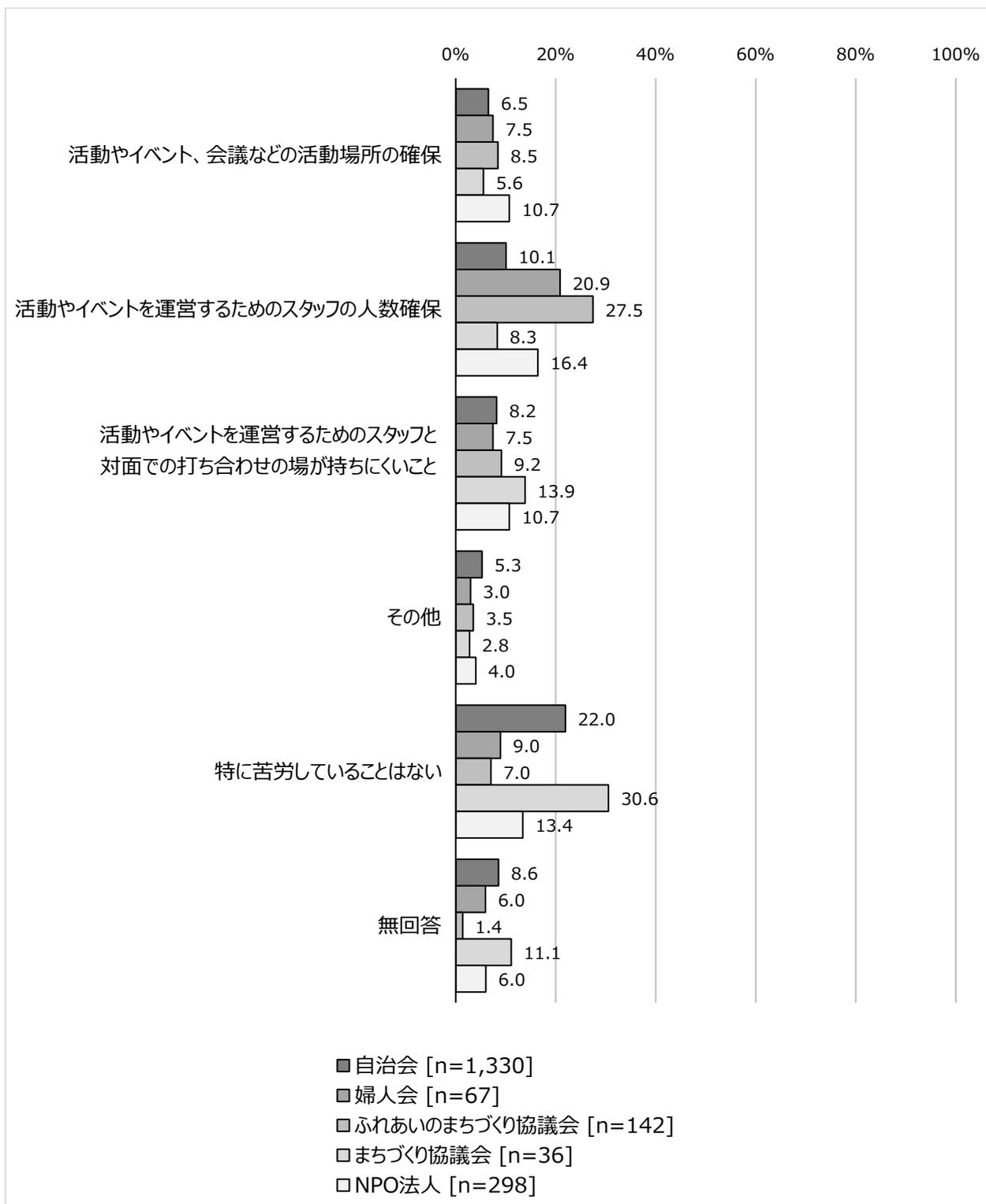
(3) 活動を進めていくための課題

① コロナ禍での活動で苦労していること

・ふれあいのまちづくり協議会において、活動やイベント、会議の形態の変更や、開催可否の決定が多くあげられている。

図表 8 コロナ禍での活動で苦労していること〔複数回答〕

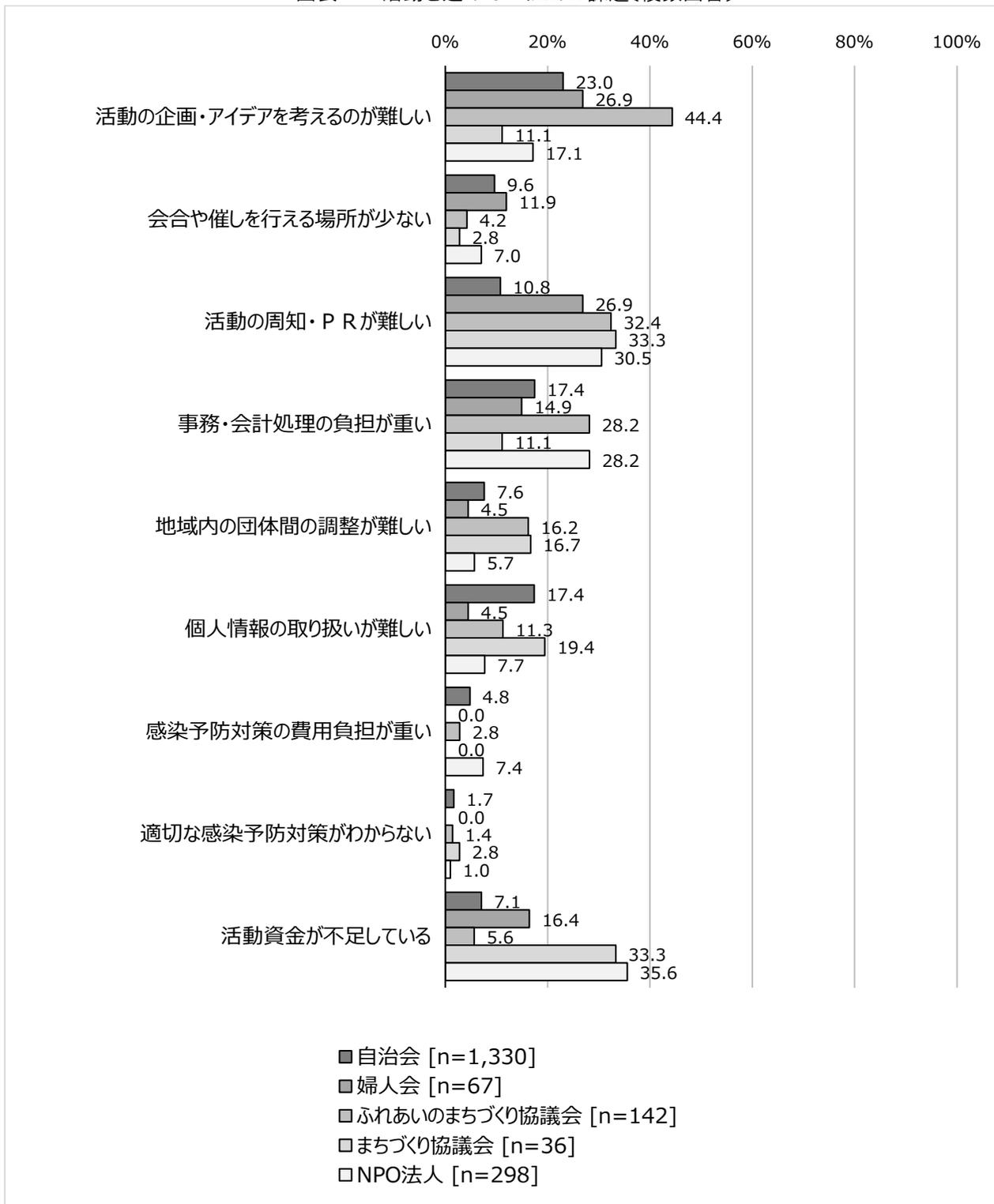


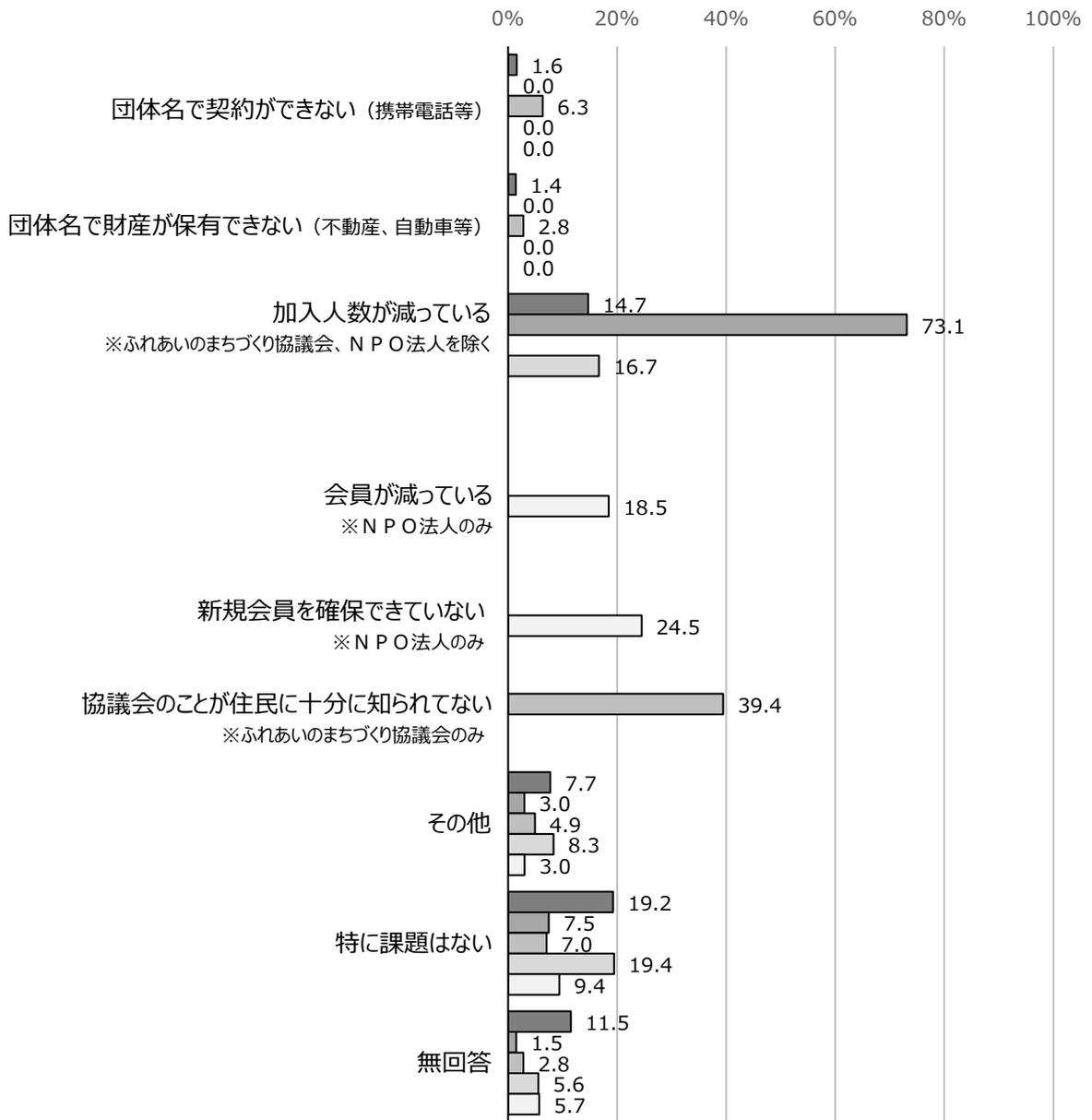


②活動を進めていくための課題（運営面）

- ・婦人会では、「加入人数が減っている」（婦人会の選択肢は「会員が減っている・新規会員が確保できてない」）が多くあげられている。
- ・ふれあいのまちづくり協議会では、「協議会のこと住民に十分に知られていない」が多くあげられている。
- ・まちづくり協議会とNPO法人では、「活動資金が不足している」が多くあげられている。

図表 9 活動を進めていくための課題〔複数回答〕



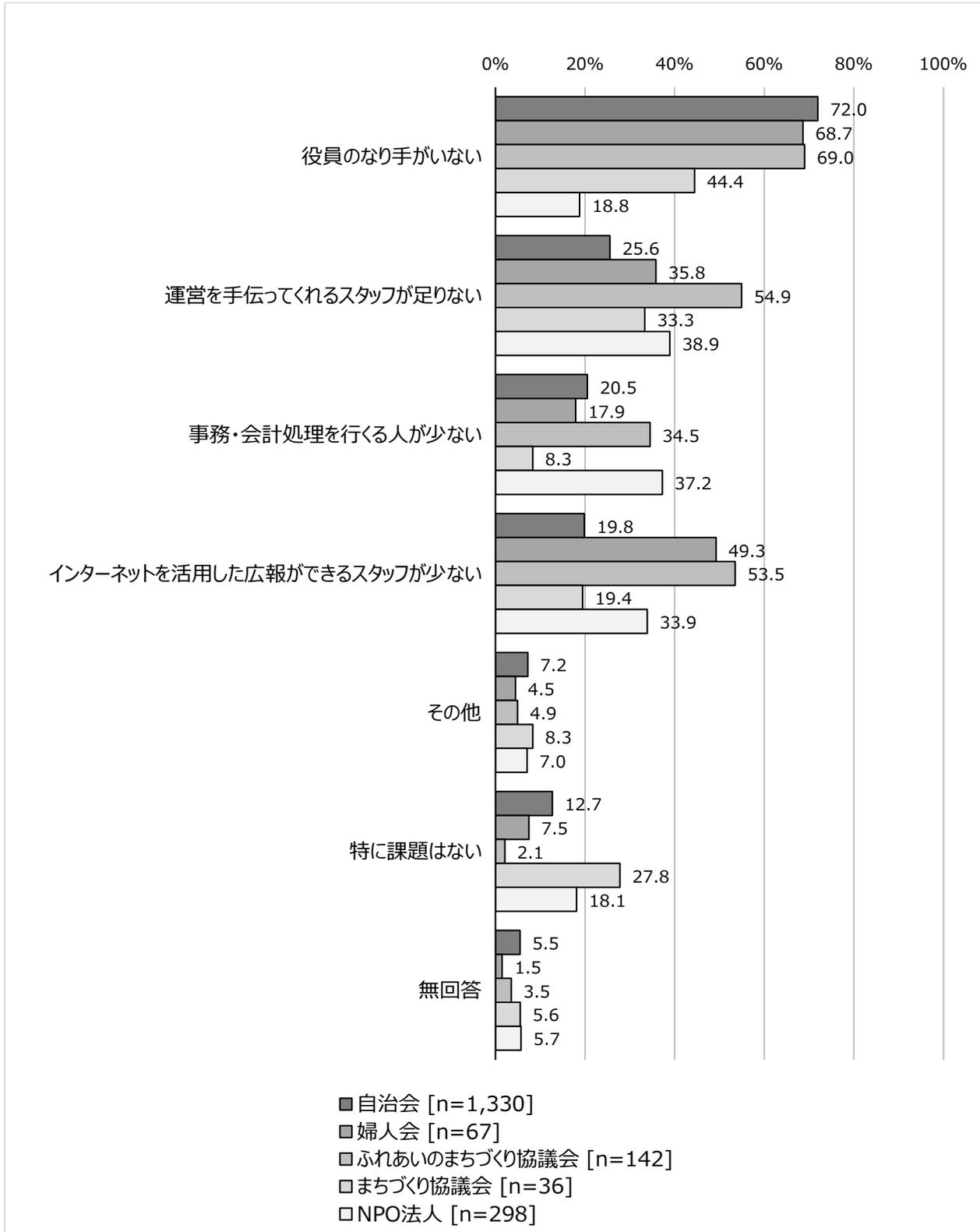


- 自治会 [n=1,330]
- 婦人会 [n=67]
- ふれあいのまちづくり協議会 [n=142]
- まちづくり協議会 [n=36]
- NPO法人 [n=298]

③活動を進めていくための課題（人材面）

- ・自治会や婦人会、ふれあいのまちづくり協議会において、「役員のなり手がいない」が多くあげられている。
- ・ふれあいのまちづくり協議会では、「スタッフが足りない」、「広報スタッフが少ない」も多くあげられている。

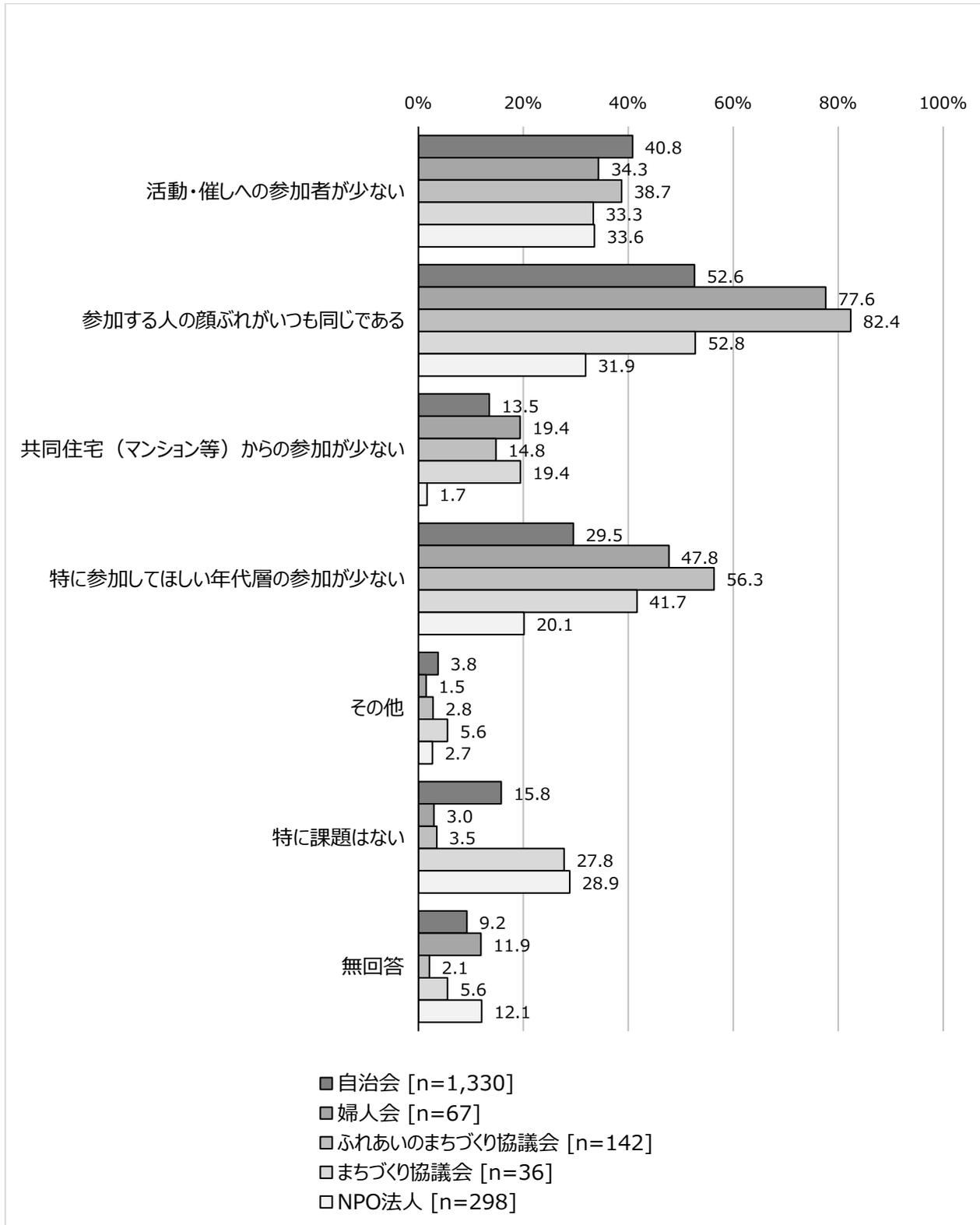
図表 10 活動を進めていくための課題(人材面)[複数回答]



④活動への住民の参加状況の課題

・婦人会とふれあいのまちづくり協議会では、「参加する人の顔ぶれがいつも同じである」や「特に参加してほしい年代層の参加が少ない」が多くあげられている。

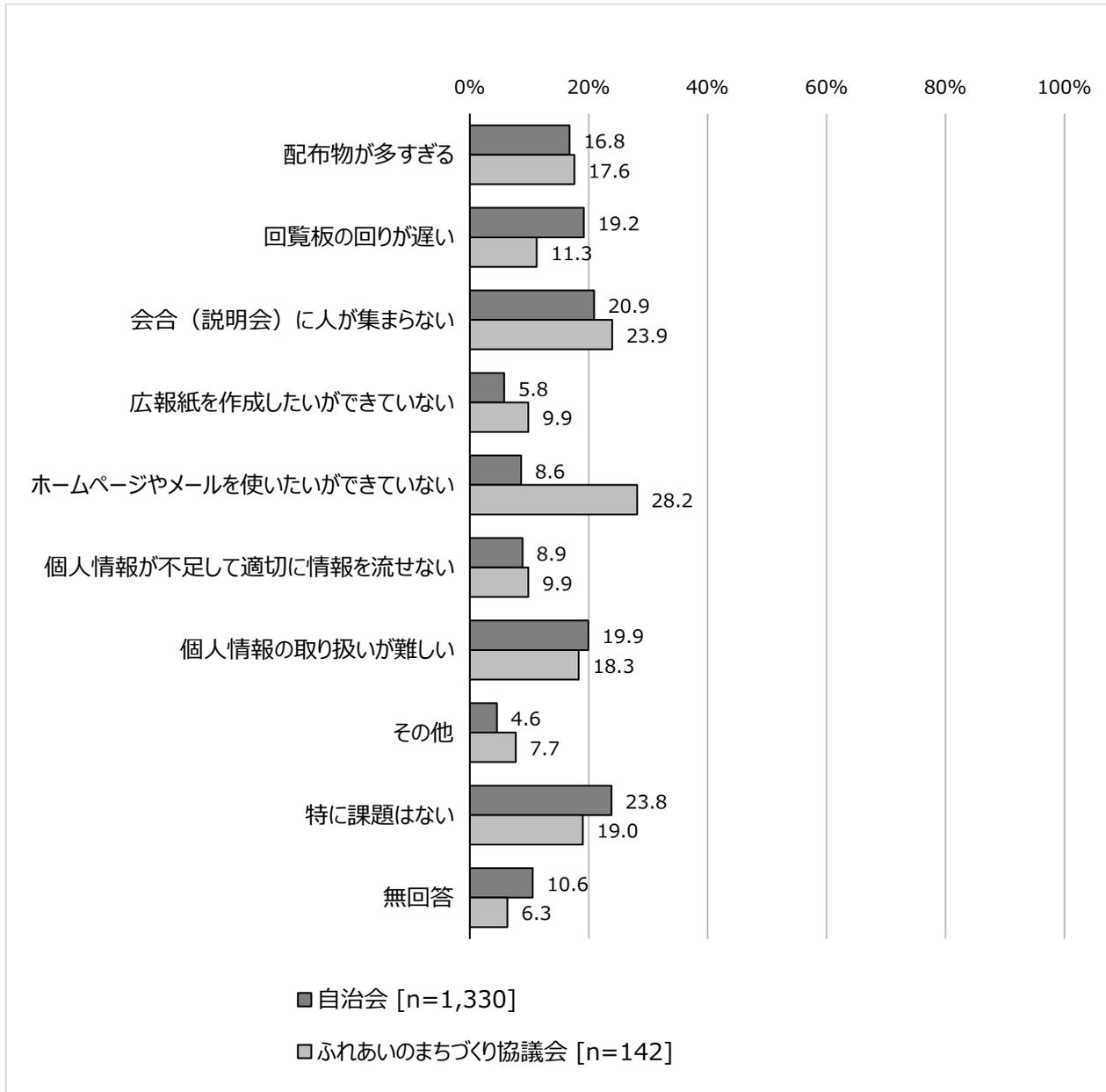
図表 11 活動への住民の参加状況の課題〔複数回答〕



⑤ 地域住民への情報伝達における課題

・ふれあいのまちづくり協議会では、「ホームページやメールを使いたいができない」が多くあげられている。

図表 12 地域住民への情報伝達における課題〔複数回答〕

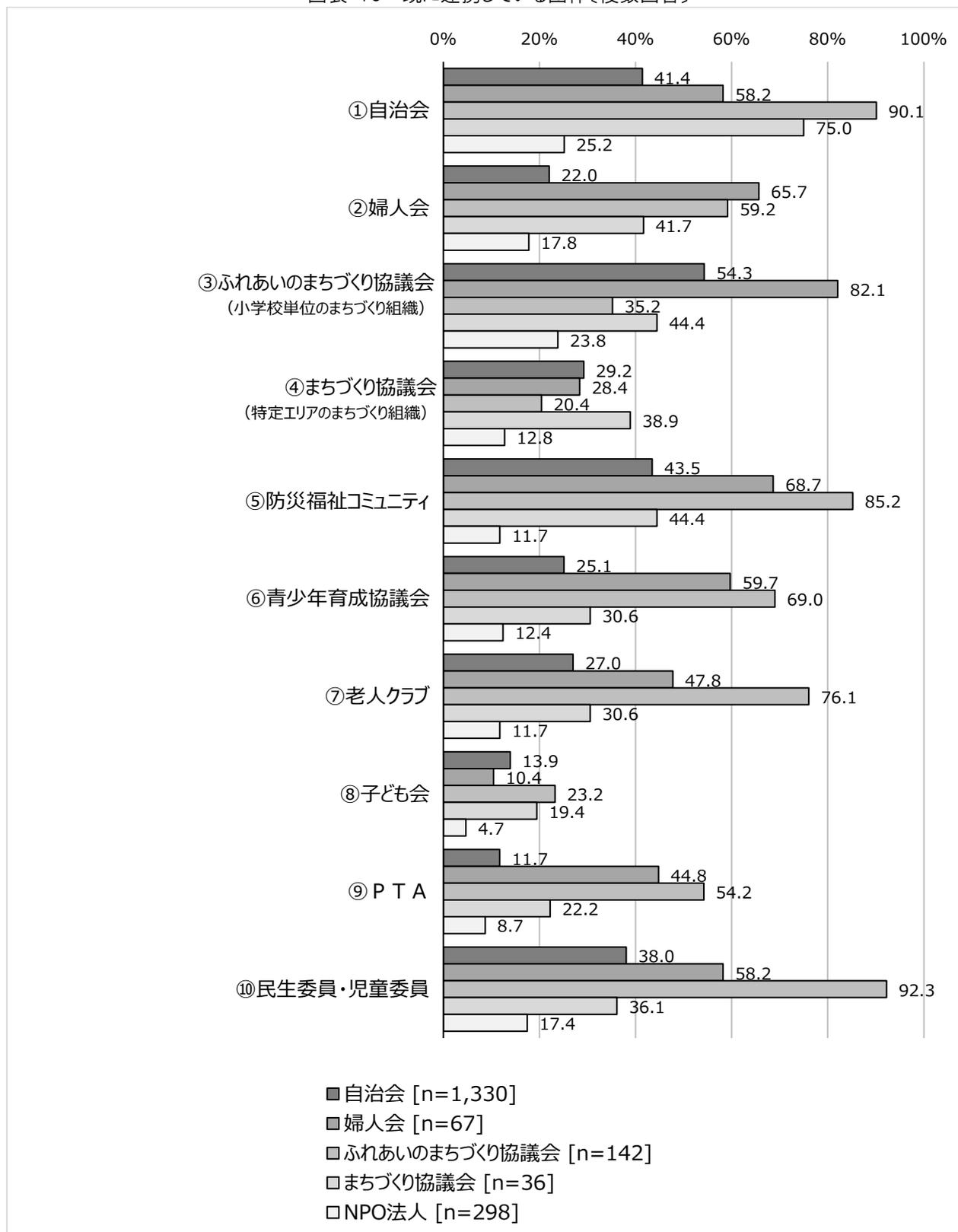


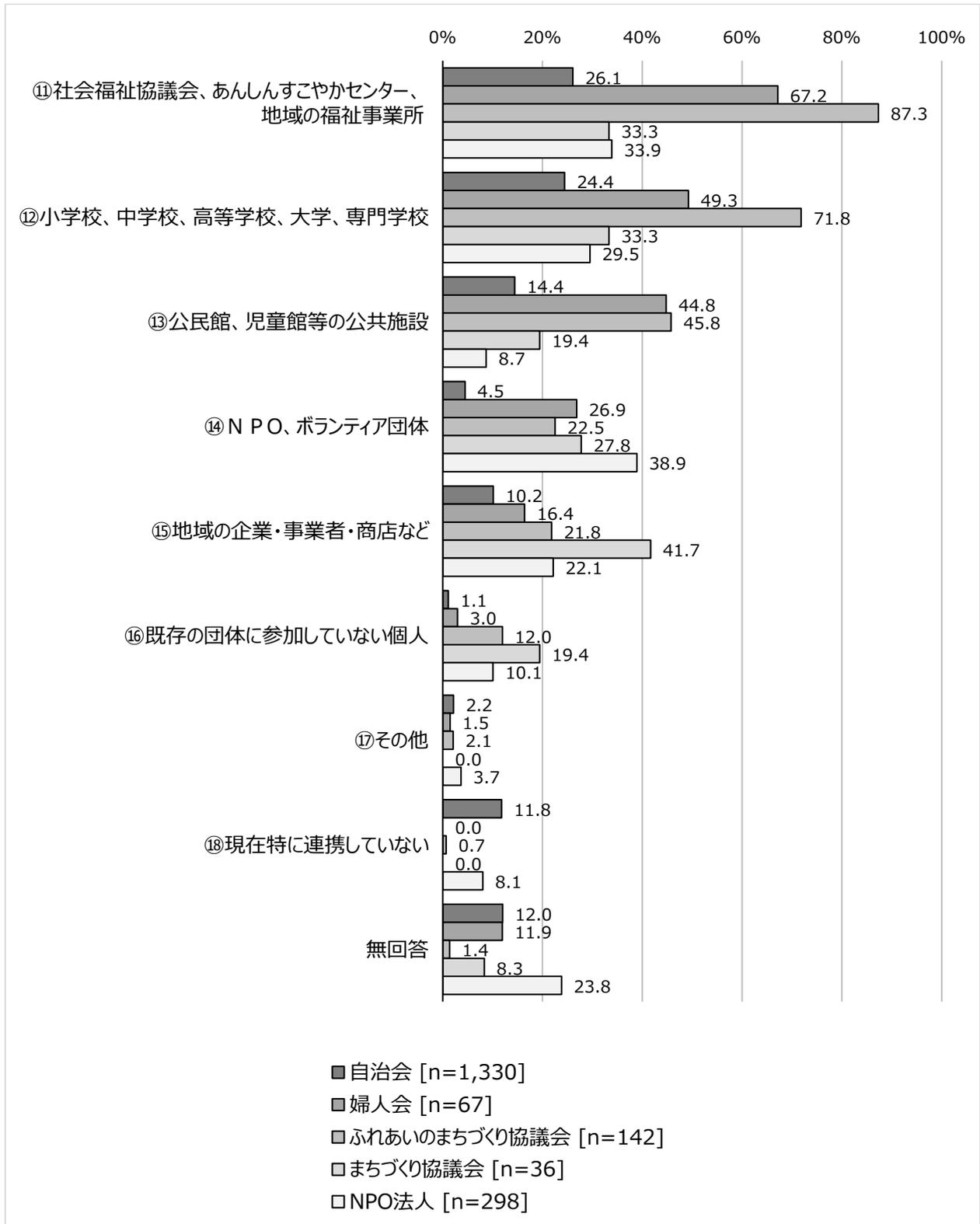
(4) 他団体との連携・協力

① 既に連携している団体

・ふれあいのまちづくり協議会において、多様の団体と連携がされている。

図表 13 既に連携している団体〔複数回答〕



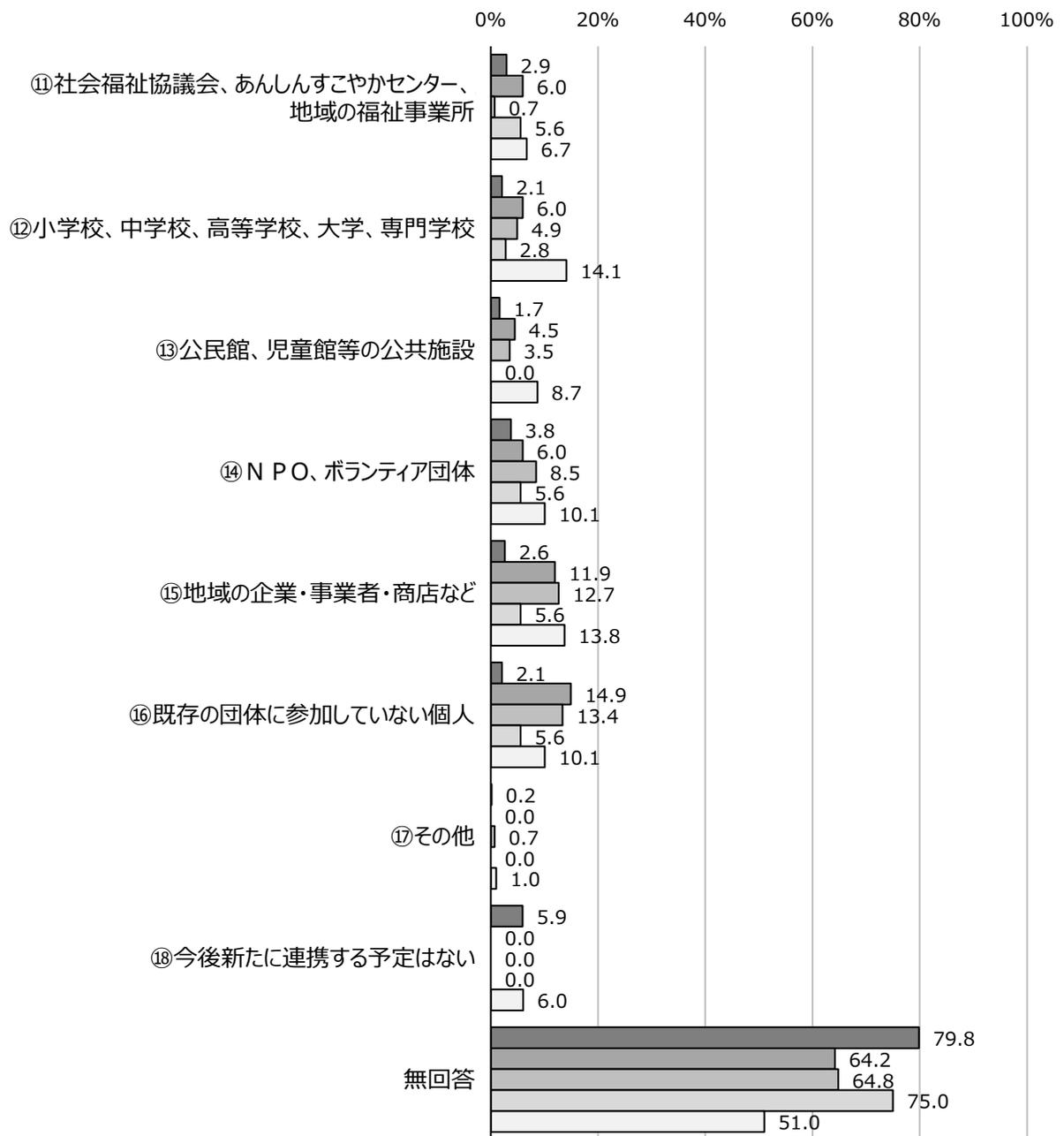


② 新たに連携したい団体

・PTAや学校、地域の企業・事業者・商店、既存の団体に参加していない個人などがあげられている。

図表 14 新たに連携したい団体〔複数回答〕





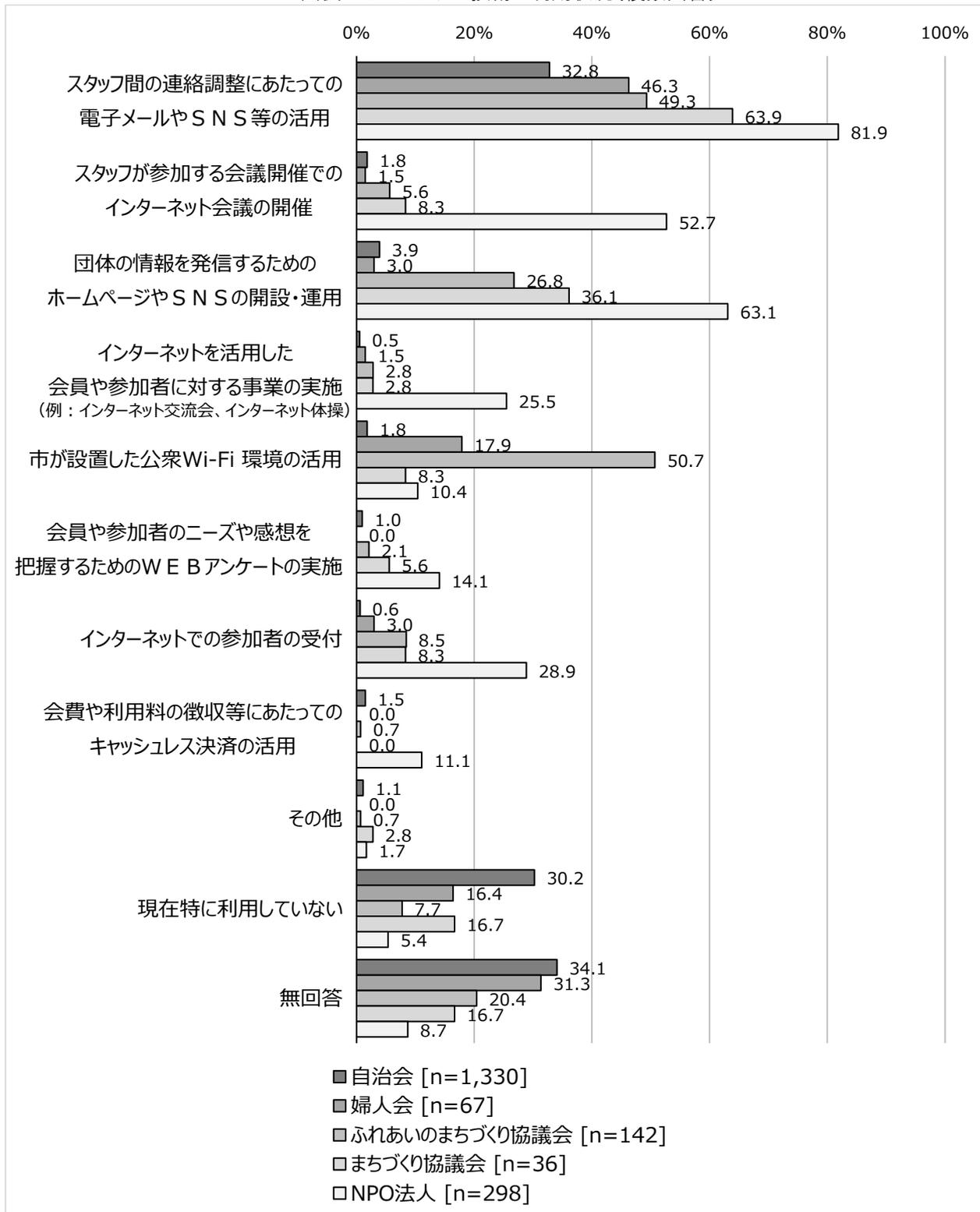
■ 自治会 [n=1,330]
 ■ 婦人会 [n=67]
 □ ふれあいのまちづくり協議会 [n=142]
 □ まちづくり協議会 [n=36]
 □ NPO法人 [n=298]

(5) デジタル技術の活用

① デジタル技術の活用状況

- ・ N P O法人ではデジタル技術の活用が多くみられる。
- ・ ふれあいのまちづくり協議会では、市が設置した公衆 Wi-Fi 環境の活用が多い。

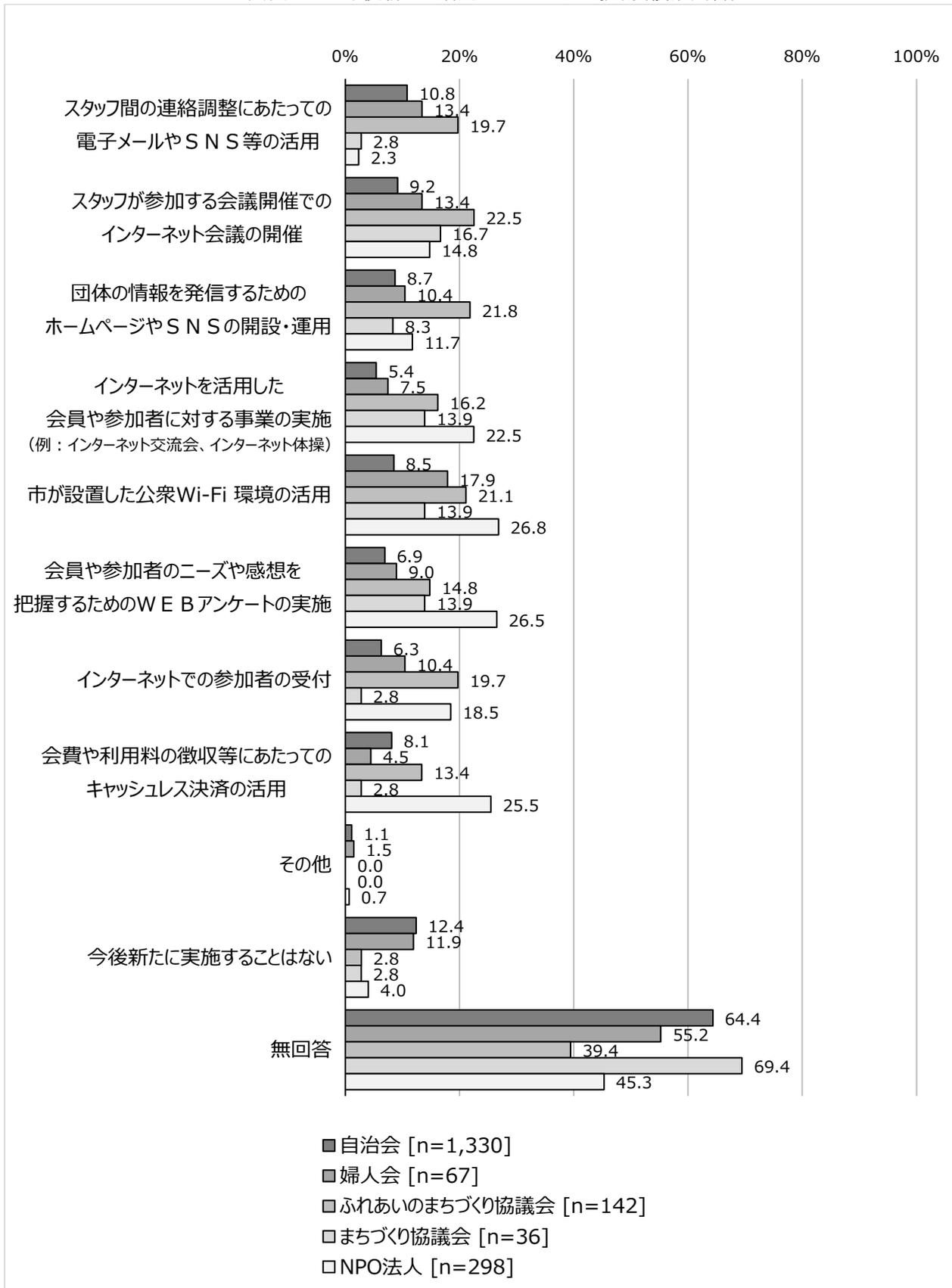
図表 15 デジタル技術の利用状況〔複数回答〕



② 今後新たに活用したいデジタル技術

・ N P O 法人とふれあいのまちづくり協議会において、今後の活用意向が多くみられる。

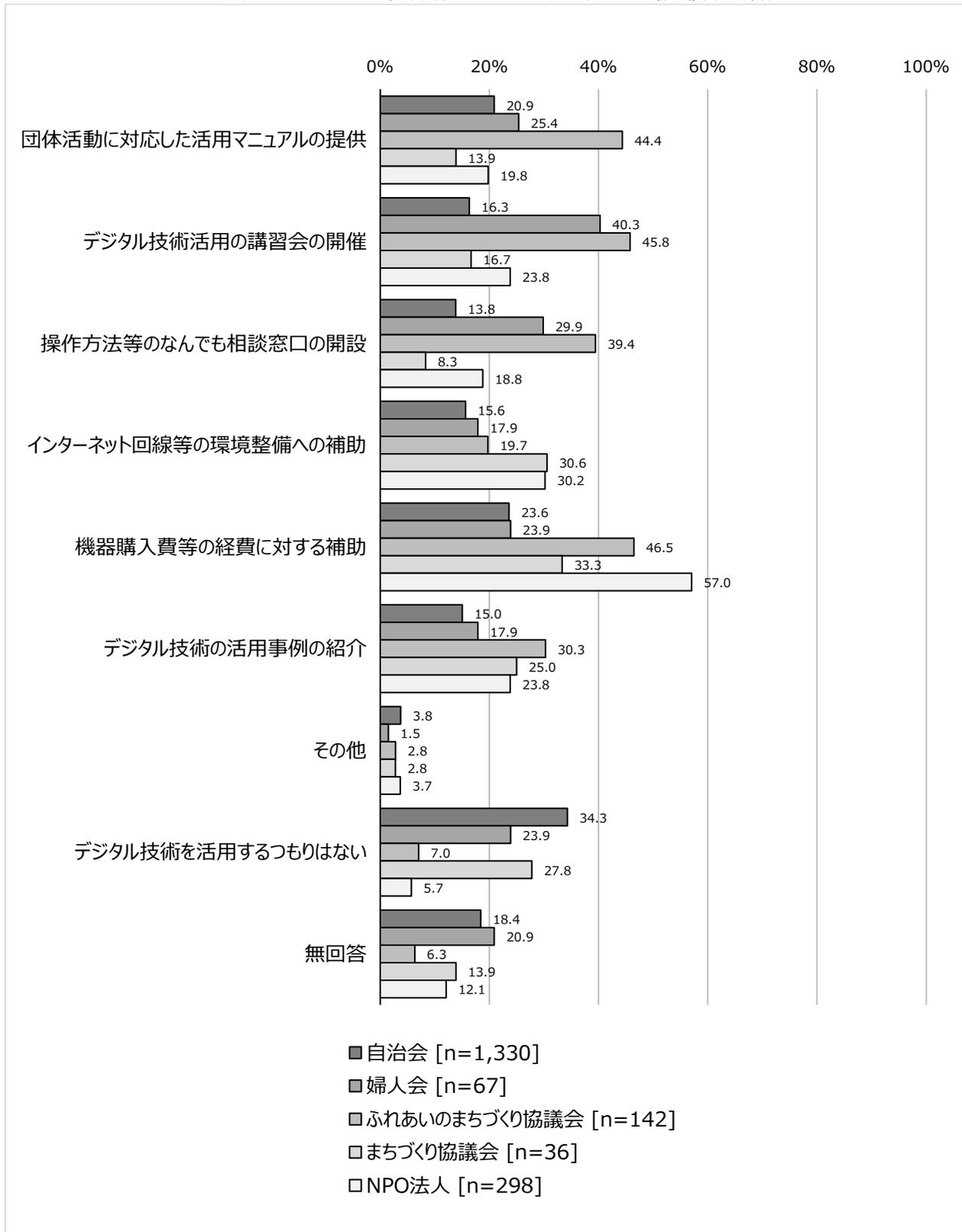
図表 16 今後新たに活用したいデジタル技術〔複数回答〕



③ デジタル技術活用のために市に求める支援

- ・ふれあいのまちづくり協議会では、活用マニュアルの提供や、講習会の開催、相談窓口の開設、機器の購入補助が多くあげられている。
- ・NPO法人では、機器の購入補助が多くあげられている。

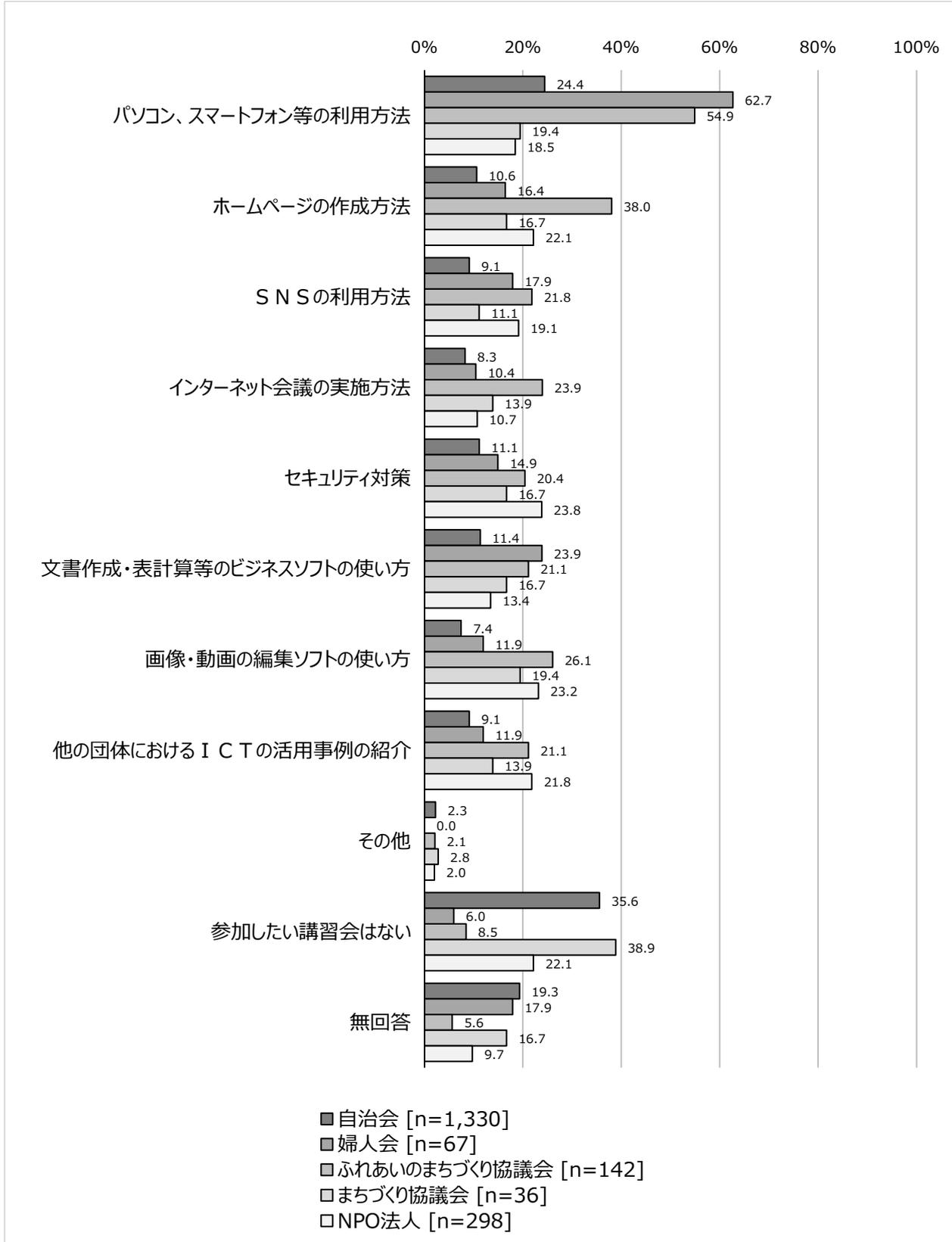
図表 17 デジタル技術活用のために市に求める支援〔複数回答〕



④ デジタル技術活用のために参加したい講習会

・婦人会やふれあいのまちづくり協議会では、パソコンやスマートフォン等の利用方法が多くあげられている。

図表 18 デジタル技術活用のために参加したい講習会〔複数回答〕

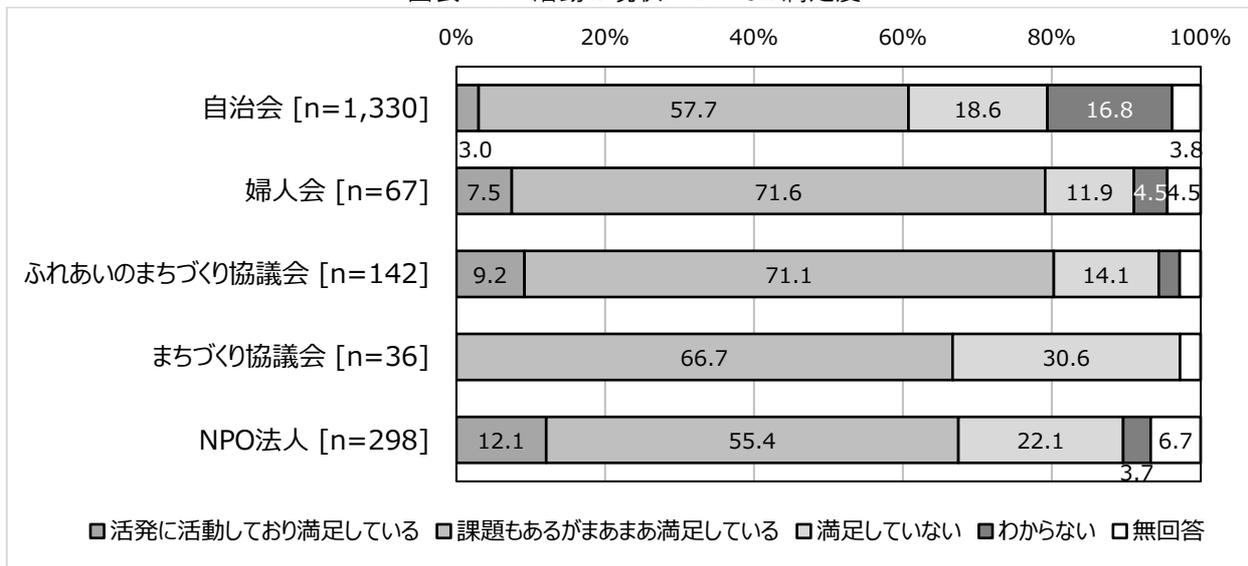


(6) 今後の活動に向けて

①活動の現状についての満足度

・すべての団体において、「課題もあるがまあまあ満足している」が多くあげられている。

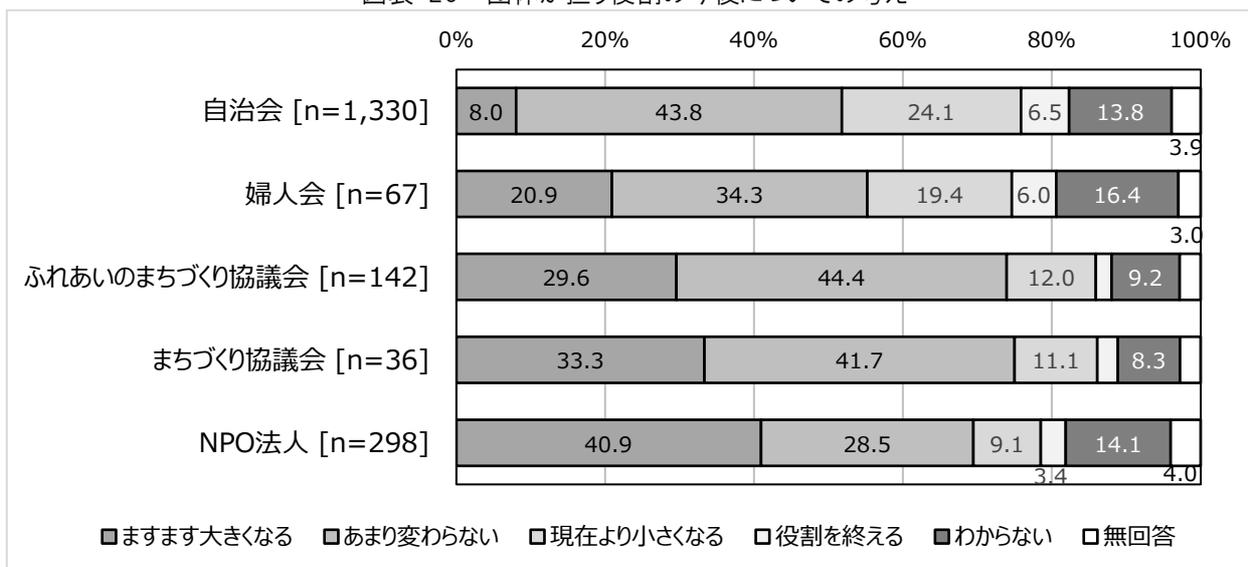
図表 19 活動の現状についての満足度



② 団体が担う役割の今後についての考え

・自治会、婦人会、ふれあいのまちづくり協議会、まちづくり協議会において、「あまり変わらない」が多くなっている。
 ・NPO法人において、「ますます大きくなる」が多くなっている。

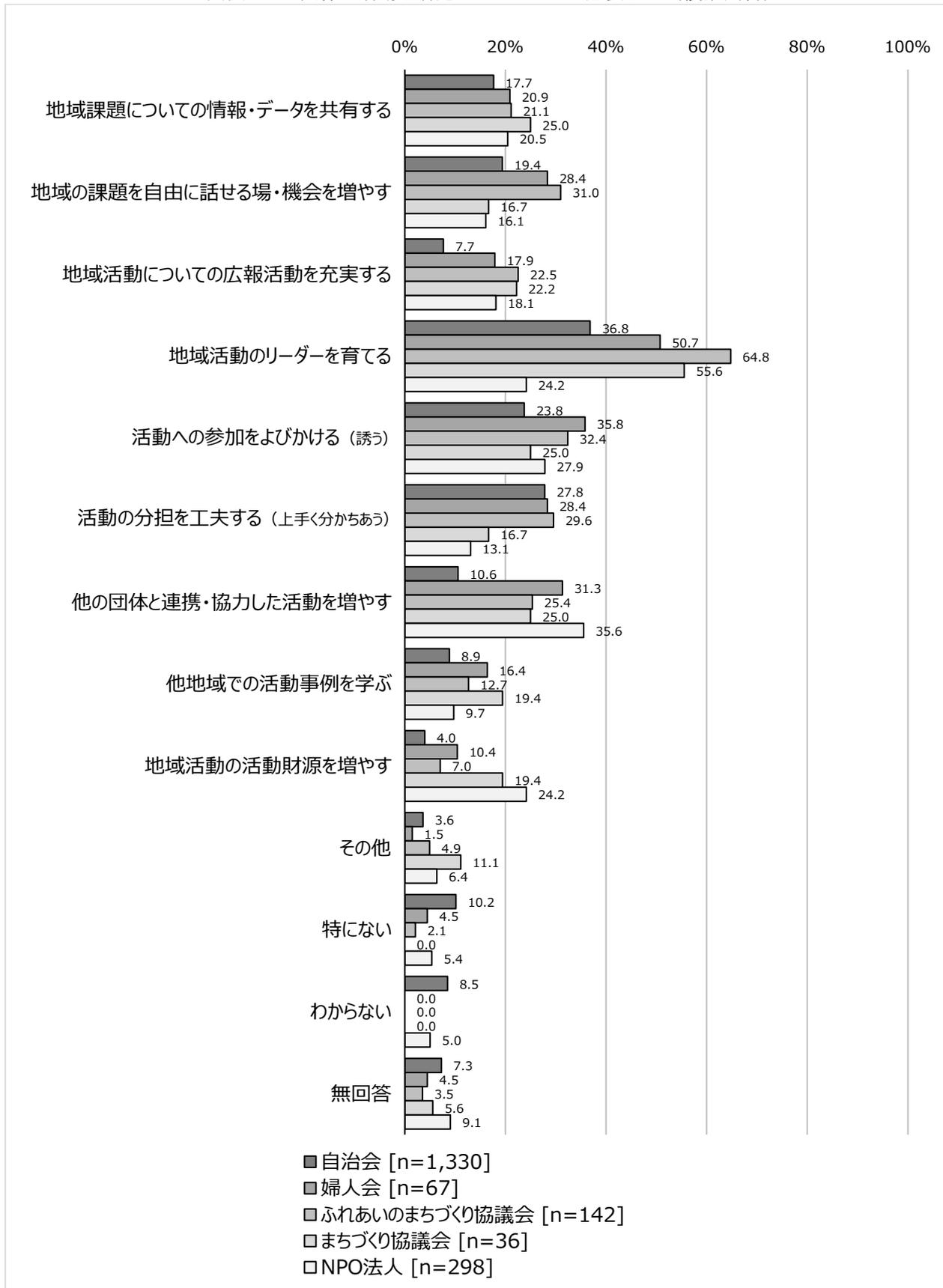
図表 20 団体が担う役割の今後についての考え



③団体の活動を活発にしていくために必要なこと

・多くの団体において、「地域活動のリーダーを育てる」が多くなっている。

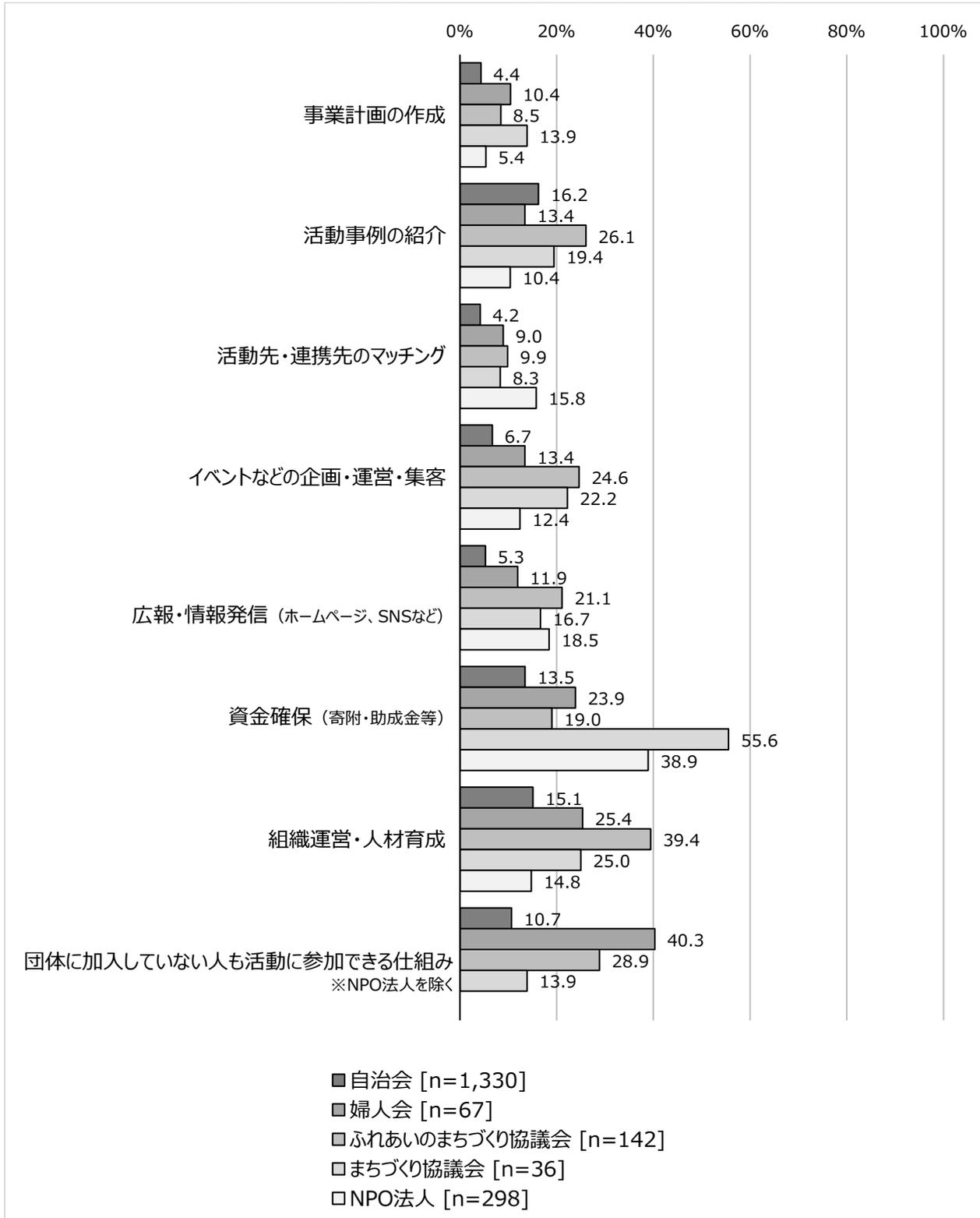
図表 21 団体の活動を活発にしていくために必要なこと〔複数回答〕

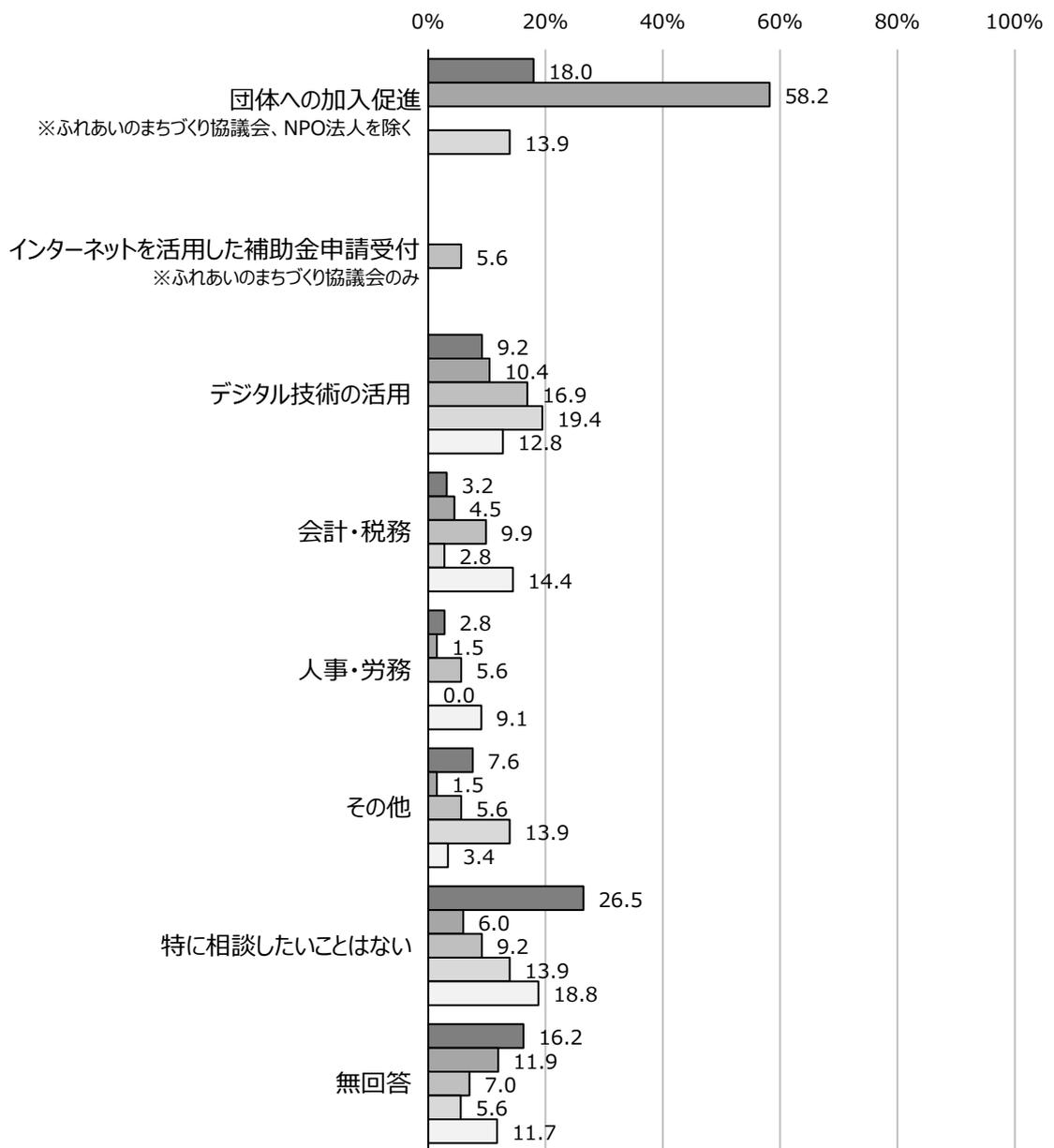


④ 市に相談したいことや支援を希望すること

- ・婦人会において、「団体への加入促進」が多くなっている。
- ・まちづくり協議会やNPO法人において、「資金確保」が多くなっている。
- ・ふれあいのまちづくり協議会において、「組織運営・人材育成」や「団体に加入していない人も活動に参加できる仕組み」が多くなっている。

図表 22 市に相談したいことや支援を希望すること〔複数回答〕





- 自治会 [n=1,330]
- 婦人会 [n=67]
- ふれあいのまちづくり協議会 [n=142]
- まちづくり協議会 [n=36]
- NPO法人 [n=298]

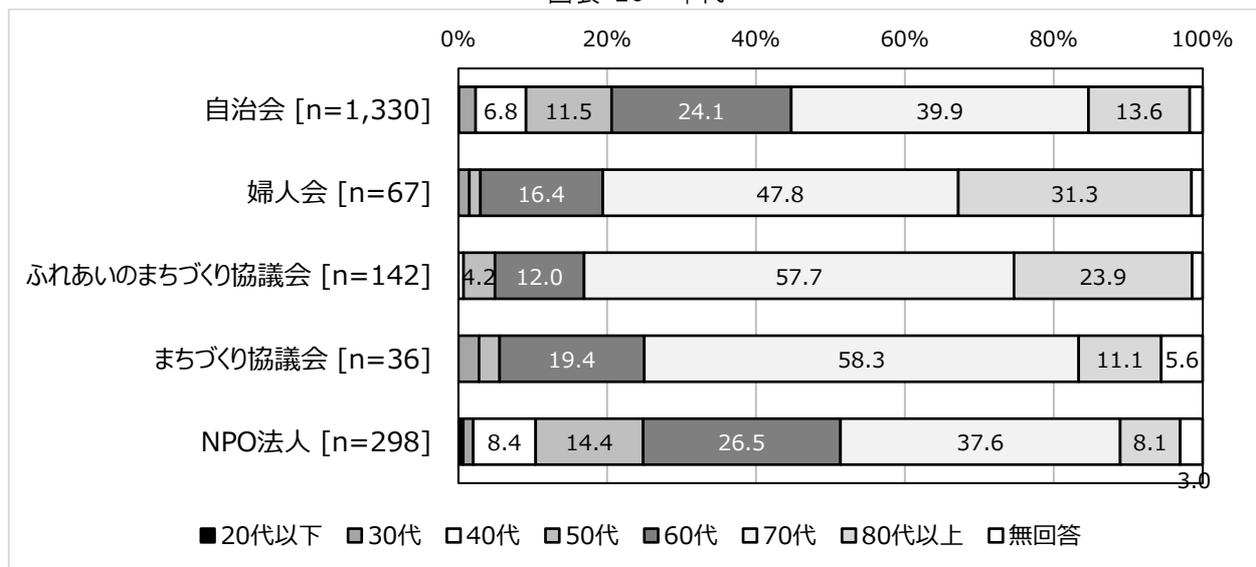
(7) 代表の活動状況

①代表（回答者）の状況

(7) 年代

- ・すべての団体において、「70代」が多くなっている。
- ・自治会とNPO法人において、50代以下の割合が、他の団体に比べて多くなっている。

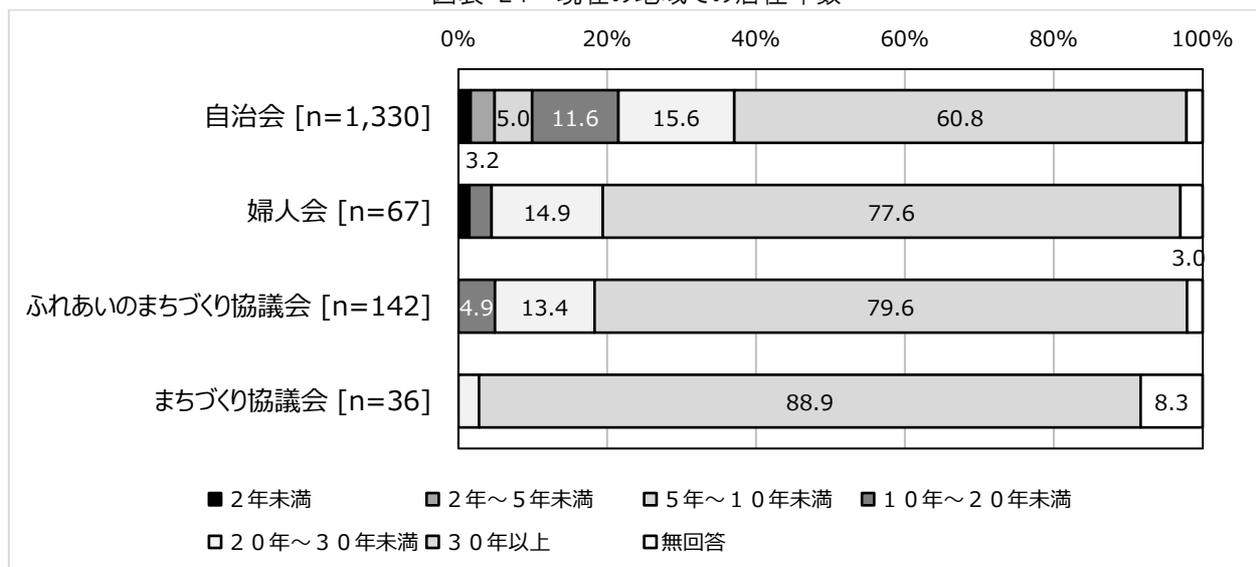
図表 23 年代



(イ) 現在の地域での居住年数

- ・すべての団体において、「30年以上」が多くなっている。
- ・自治会において、30年未満の割合が、他の団体に比べて多くなっている。

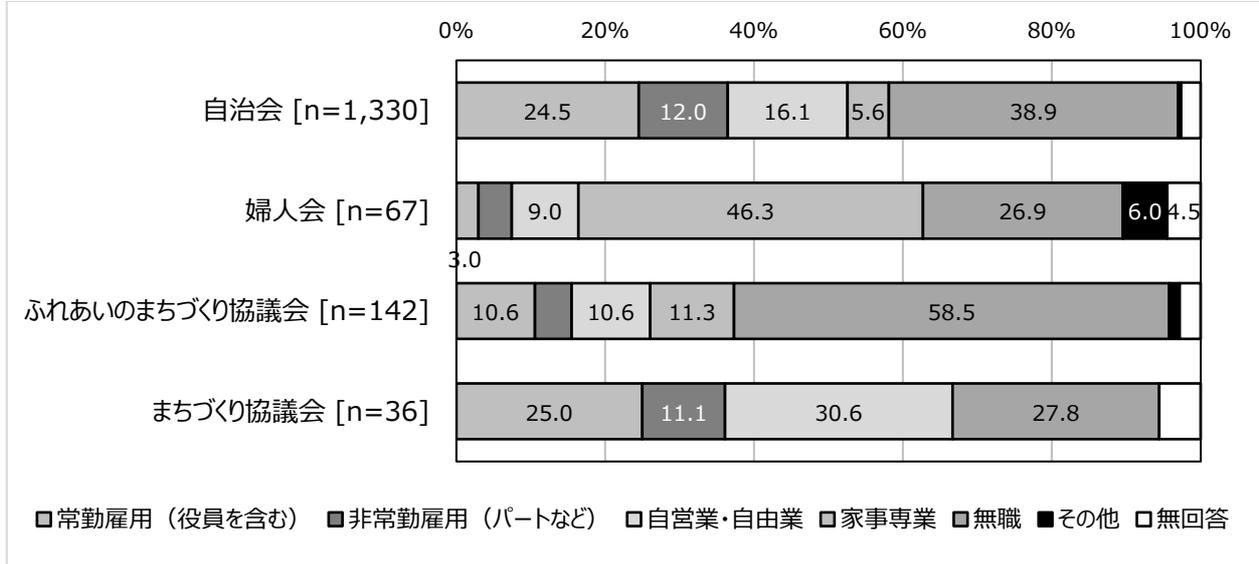
図表 24 現在の地域での居住年数



(ウ) 就業状況

- ・自治会とふれあいのまちづくり協議会において、「無職」が多くなっている。
- ・婦人会において、「家事専業」が多くなっている。

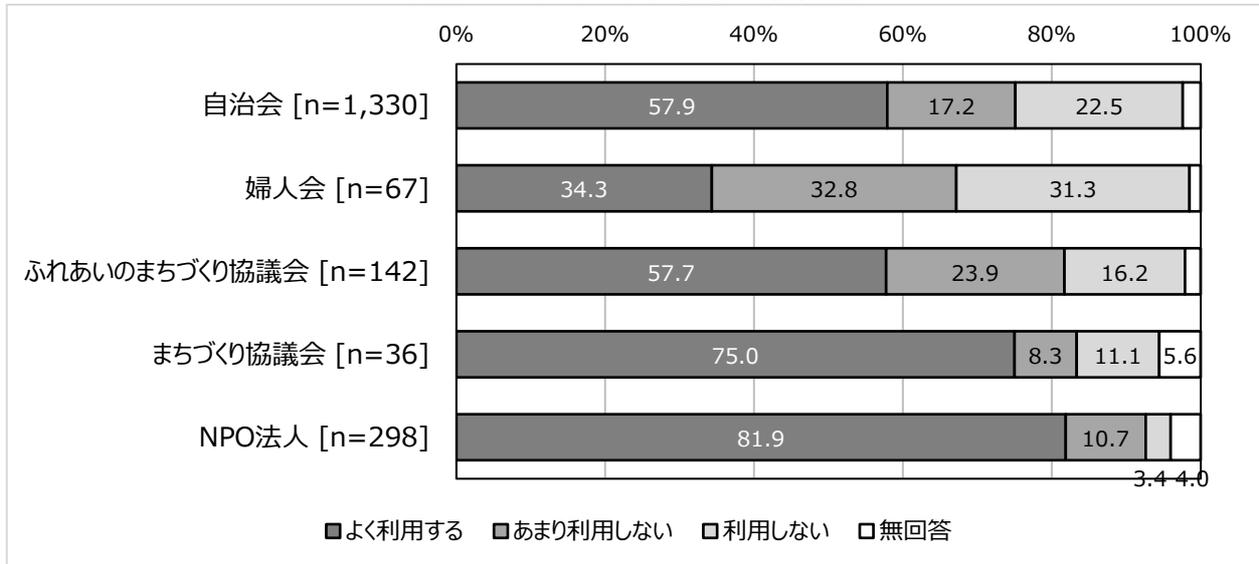
図表 25 就業状況



(イ) インターネット検索の利用状況

- ・婦人会において、「あまり利用しない」と「利用しない」の割合が他の団体に比べて多くなっている。

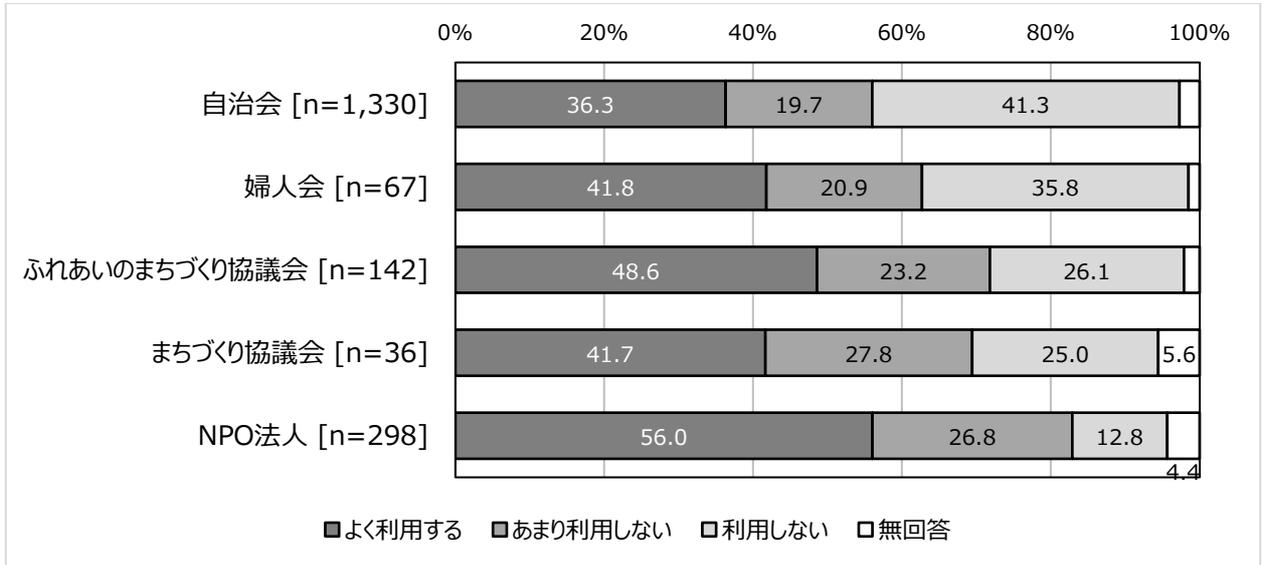
図表 26 インターネット検索の利用状況



(オ) SNSの利用状況

・自治会において、「利用しない」の割合が他の団体に比べて多くなっている。

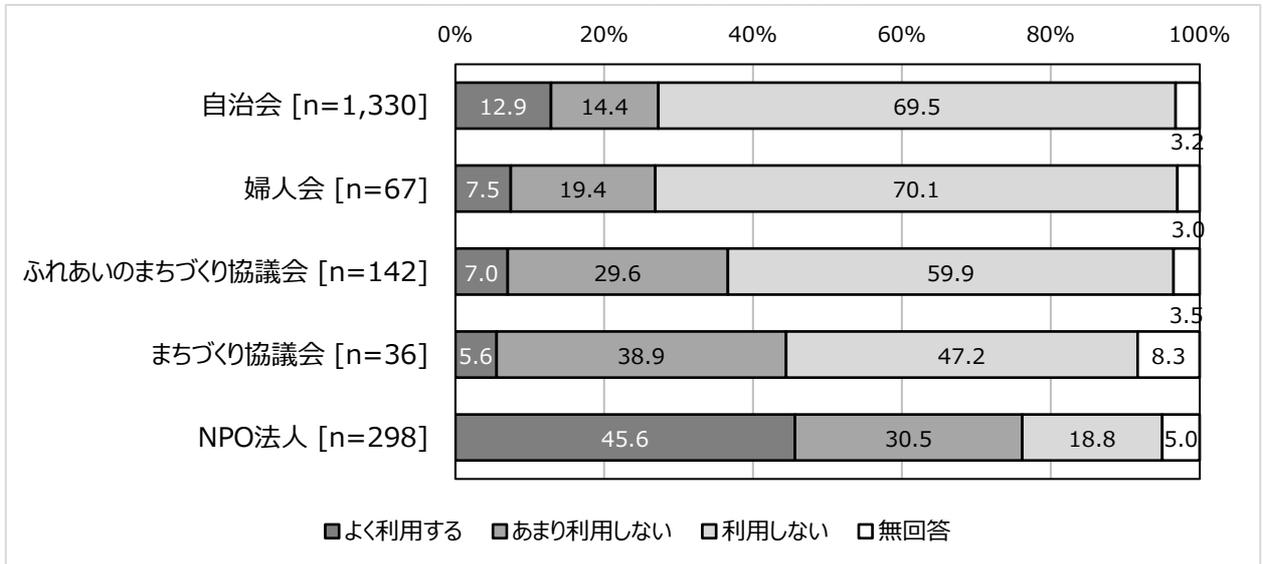
図表 27 SNSの利用状況



(カ) インターネット会議の利用状況

・NPO法人において、「よく利用する」の割合が他の団体に比べて多くなっている。

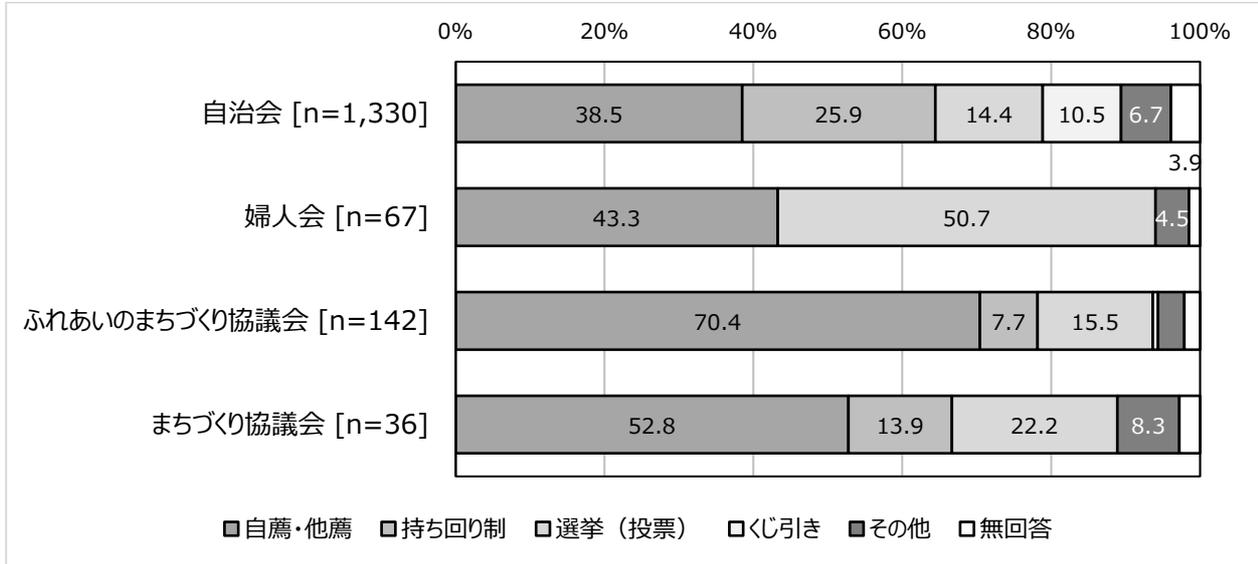
図表 28 インターネット会議の利用状況



③代表の選出方法

- ・自治会、ふれあいのまちづくり協議会、まちづくり協議会において、「自薦・他薦」の割合が多くなっている。
- ・婦人会において、「選挙（投票）」の割合が他の団体に比べて多くなっている。

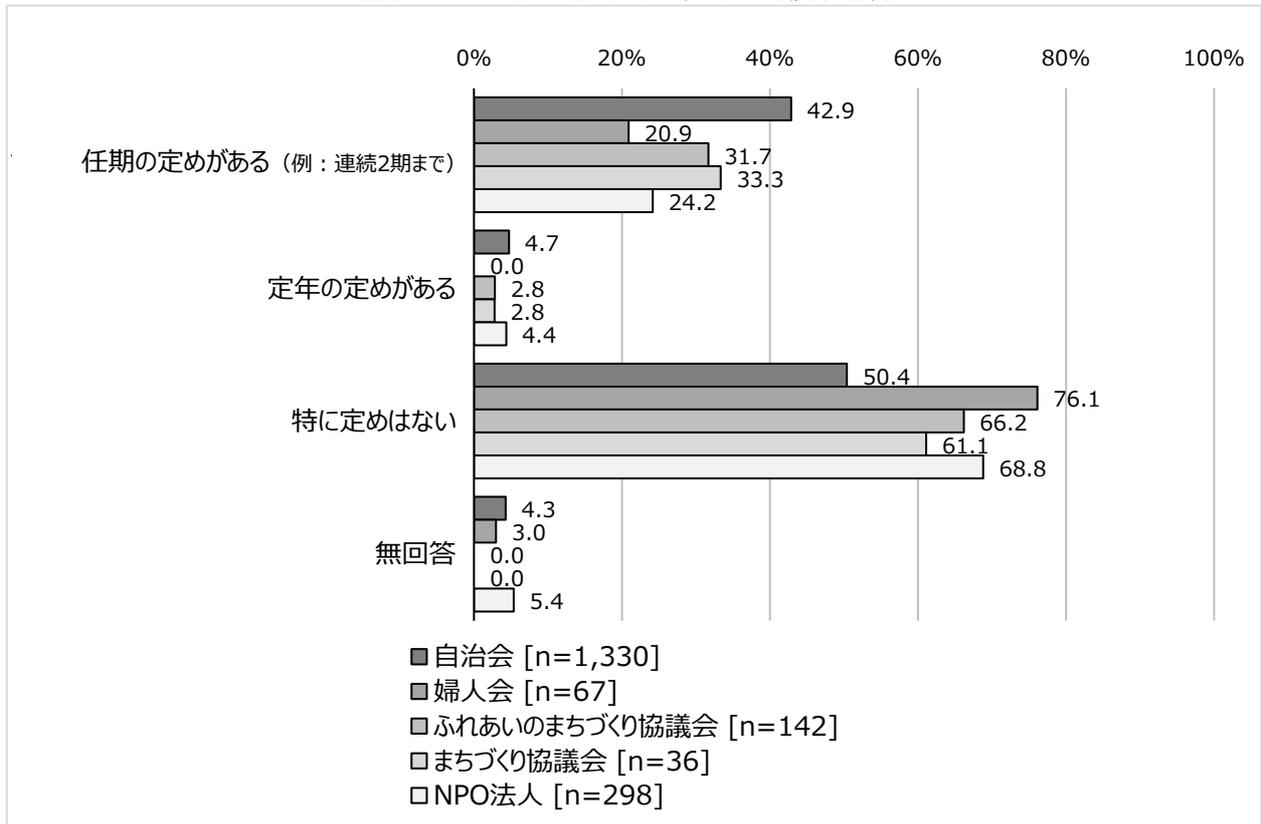
図表 29 代表の選出方法



④ 代表の任期や定年の定め

- ・すべての団体において、「特に定めはない」が多くなっている。

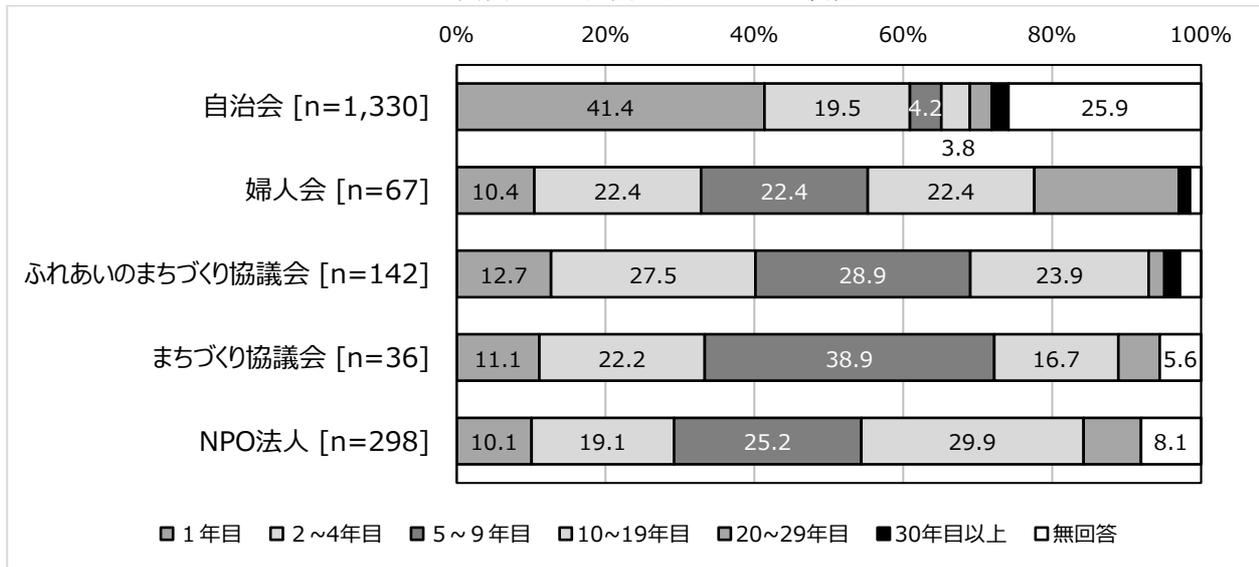
図表 30 代表の任期や定年の定め〔複数回答〕



⑤ 代表になってからの年数

・自治会において、「1年目」の割合が、他の団体と比べて多くなっている。

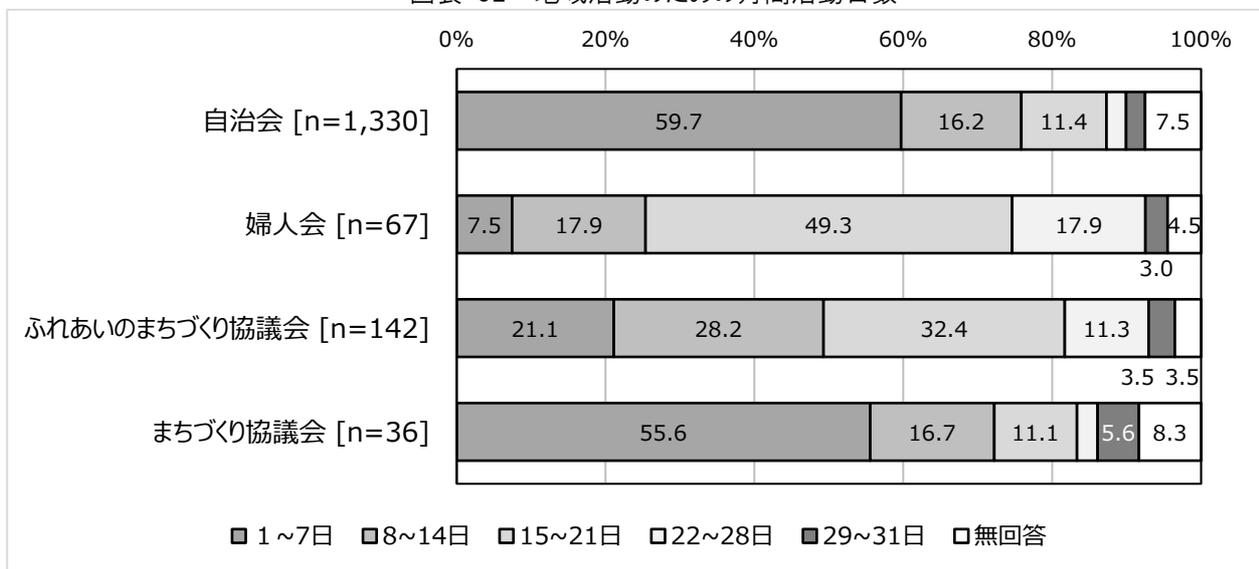
図表 31 代表になってからの年数



⑥ 地域活動のための月間活動日数

・自治会とまちづくり協議会において、「1~7日」が最も多くなっている。
 ・婦人会とふれあいのまちづくり協議会において、「15~21日」が最も多くなっている。

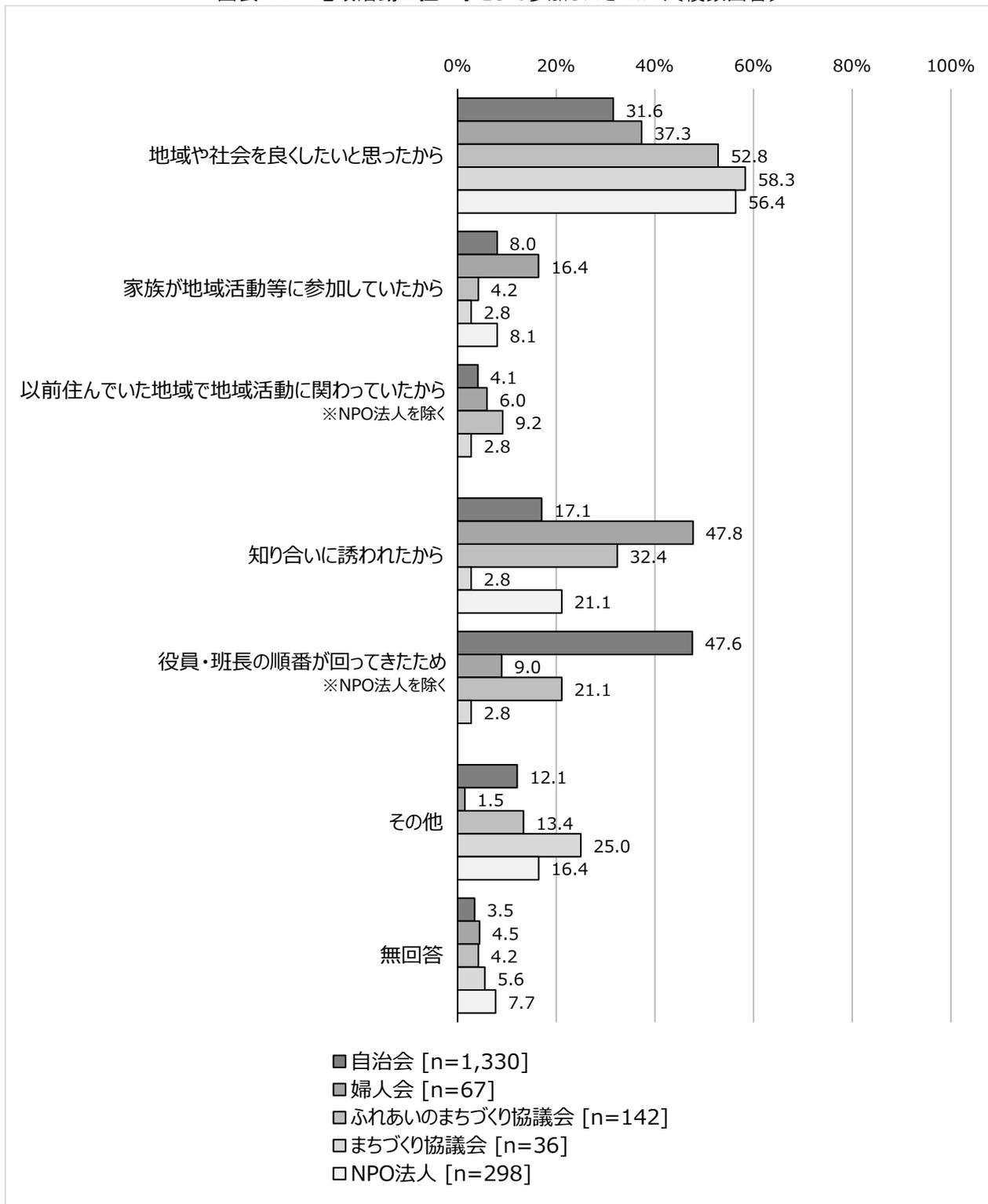
図表 32 地域活動のための月間活動日数



⑦地域活動の担い手として参加したきっかけ

- ・自治会において、「役員・班長の順番が回ってきたため」の割合が、他の団体と比べて多くなっている。
- ・婦人会において、「知り合いに誘われたから」の割合が、他の団体と比べて多くなっている。
- ・ふれあいのまちづくり協議会やまちづくり協議会、NPO法人において、「地域や社会を良くしたいと思ったから」の割合が、他の団体と比べて多くなっている。

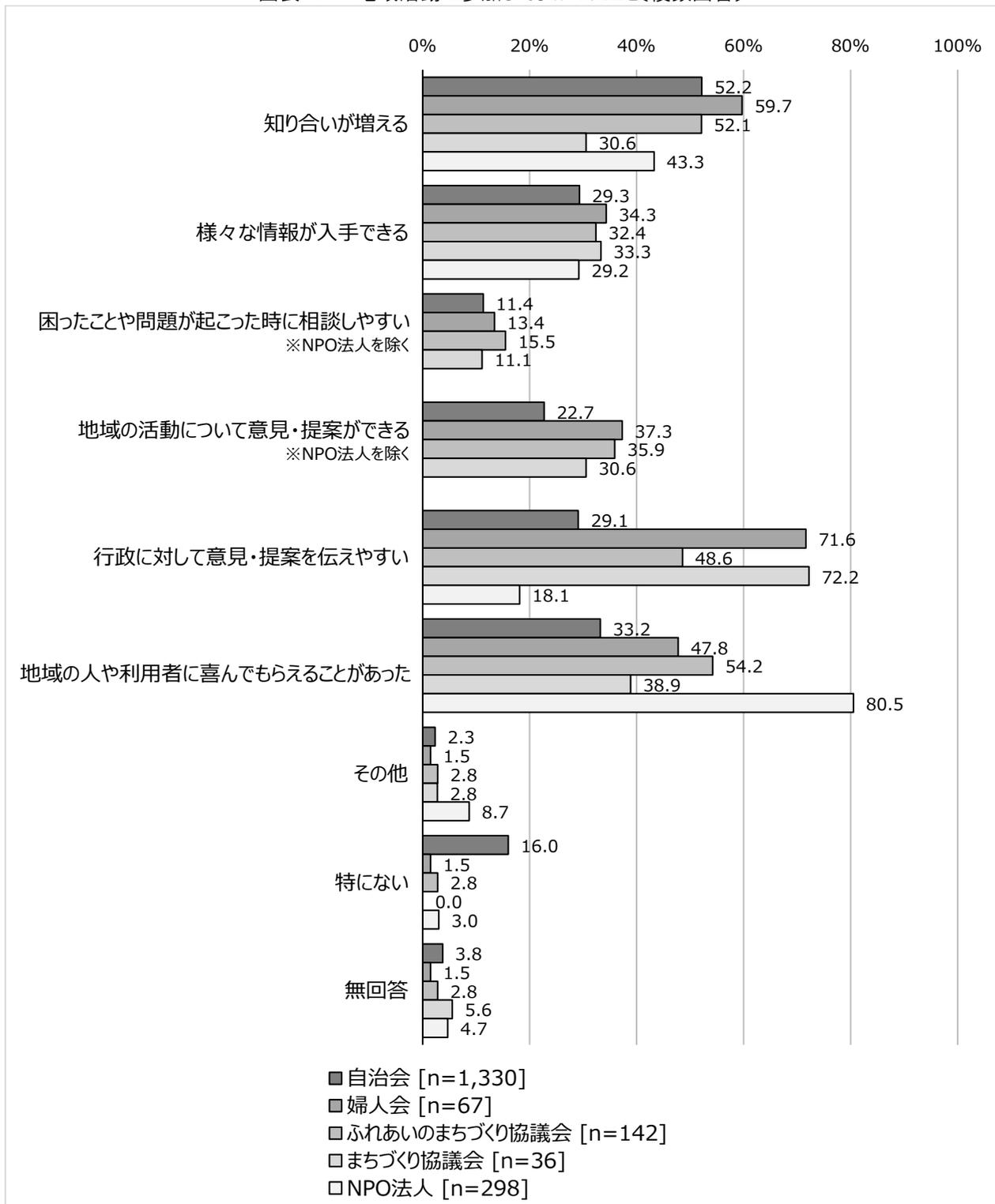
図表 33 地域活動の担い手として参加したきっかけ〔複数回答〕



⑧ 地域活動に参加してよかったこと

- ・自治会において、「知り合いが増える」の割合が、他の団体と比べて多くなっている。
- ・婦人会とまちづくり協議会において、「行政に対して意見・提案を伝えやすい」の割合が、他の団体と比べて多くなっている。
- ・ふれあいのまちづくり協議会やNPO法人において、「地域の人や利用者に喜んでもらえることがあった」の割合が、他の団体と比べて多くなっている。

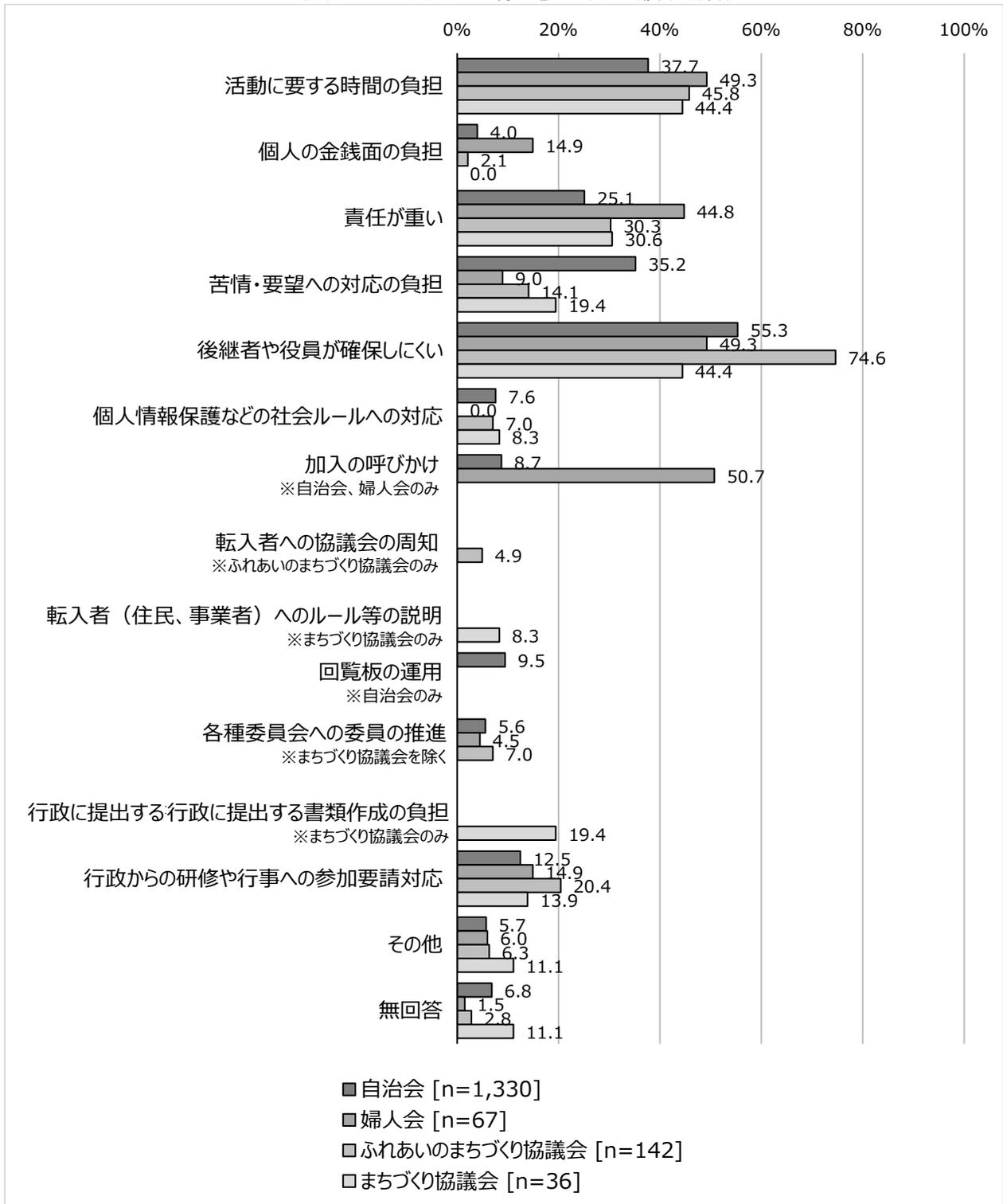
図表 34 地域活動に参加してよかったこと〔複数回答〕



⑨ 会長として特に感じる負担

- すべての団体において、「後継者や役員が確保しにくい」、「活動に要する時間の負担」の割合が多くなっている。
- 婦人会において、「加入の呼びかけ」の割合が多くなっている。

図表 35 会長として特に感じる負担〔複数回答〕



■ **令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査**

5団体の比較結果 調査結果報告書（概要版）

（連絡先）

神戸市地域協働局地域活性課（地域コミュニティ担当）

電話：078-322-5170（内線2262） FAX：078-322-6133

電子メール community@office.city.kobe.lg.jp

（調査委託先）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社